

# KNOW

NEWS LETTER

NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER

2023.9  
第109号



公益財団法人  
麻薬・覚せい剤乱用防止センター  
Drug Abuse Prevention Center



競輪の補助事業

この冊子は、競輪の補助により作成しました。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp>

**薬物乱用は  
ダメ。ゼッタイ。**

**薬物にNo!と言える勇気を**

**D.LEAGUE** 日本発のプロダンスリーグ「D.LEAGUE」はダンスを通じて健康的な未来を築いていくため「薬物撲滅運動」を宣言しています。

厚生労働省/都道府県/  
(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター

6・26  
国際麻薬乱用  
撲滅デー  
The International Day Against Drug  
Abuse and Illicit Trafficking  
国連支援募金

薬物でお困りの方は一人で悩まず相談を! 厚生労働省 薬物 相談 検索

# NEWS LETTER

2023.9・第109号

C O N T E N T S

随想

- 「薬物情勢の現状と対策について」  
警察庁刑事局組織犯罪対策部 組織犯罪対策第二課長 森下 元雄 ..... 1
- かいせつ
- UNODCのWorld Drug Report 2022にみる世界の薬物問題の現状と課題(その2)  
岐阜薬科大学・兵庫教育大学 名誉教授 勝野 眞吾 ..... 2
- 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動・国連支援募金 令和5年度の  
啓発活動状況 厚生労働大臣メッセージ ..... 6
- 「第六次薬物乱用防止五か年戦略(概要)」について ..... 27
- 薬物事犯データ ..... 28
- 第66回国連麻薬委員会 サイド・イベントの報告 ..... 31
- センターだより ..... 34
- ご寄付団体及び賛助会員 ..... 36

# 「薬物情勢の現状と対策について」



警察庁刑事局組織犯罪対策部  
組織犯罪対策第二課長

森 下 元 雄

近年、我が国では、若年層による大麻の乱用が深刻な問題となり、芸能人やスポーツ選手が大麻所持で検挙されるといった社会的反響の大きな事案も後を絶たない状況にあります。

覚醒剤や大麻等の乱用は、乱用者自身の精神や身体をむしばむばかりでなく、その薬理作用による幻覚、妄想等から、凶悪な事件や重大な交通事故を引き起こすなど、社会の安全を脅かします。また、薬物の不正取引は、暴力団等犯罪組織の資金源となることから、治安の根幹を揺るがす重要な問題です。

薬物事犯の検挙人員は、近年横ばいが続く中、令和4年は1万2,142人と前年より減少しました。覚醒剤事犯の検挙人員は6,124人と前年より大幅に減少し、第三次覚醒剤乱用期のピークであった平成9年の1万9,722人から中期的に減少傾向にあります。しかし、再犯者の構成比率は約7割を占めており、覚醒剤の依存性の強さを裏付けるものとなっています。

一方、大麻事犯の検挙人員は、平成26年以降増加が続く、令和4年中は5,342人と過去最多を記録した前年に続く高い水準にあります。中でも30歳未満の若年層の検挙人員は全体の約7割を占めていることから、若年層に大麻がまん延しており、大麻乱用期の渦中ともいえます。さらに、近年は特に暴力団構成員等による大量大麻栽培事犯の検挙が見られるなど、暴力団の資金源ともなっていることがわられます。

令和4年中の薬物密輸入事犯の検挙件数は294件で、前年から大幅に増加しました。密輸入事犯における覚醒剤の押収量については前年より減少したものの、電子たばこ用等の大麻濃縮物の押収量が大幅に増加しました。また、暴力団構成員等や外国人による密輸入事件や、航空機利用の密輸入事件が前年より増加するなど、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和により、国際的なネットワークを有する薬物犯罪組織が国内における薬物取引を活性化させていることが推認されます。

こうした厳しい情勢の中、薬物対策については、本年8月、政府の薬物乱用対策推進会議で「第六次薬物乱用防止五か年戦略」を策定し、関係省庁が緊密に連携して、①「青少年を中心とした広報・啓発を通じた国民全体の規範意識の向上による薬物乱用未然防止」、②「薬物乱用者に対する適切な治療と効果的な社会復帰支援等による再乱用防止」、③「国内外の薬物密売組織の壊滅、大麻をはじめとする薬物の乱用者に対する取締りの徹底及び多様化する乱用薬物等に対する迅速な対応による薬物の流通阻止」、④「水際対策の徹底による薬物の密輸入阻止」、⑤「国際社会の一員としての国際連携・協力を通じた薬物乱用防止」の5つの目標を薬物対策の重要な柱と位置付けました。警察においても、薬物の「供給の遮断」と「需要の根絶」の両面から、目標達成に向けた総合的な対策を推進します。

薬物の供給を遮断する取組としては、海外から流

入している薬物について、麻薬取締部のほか、税関、海上保安庁等の国内関係機関との合同訓練や連絡会議を通じて連携を強化するとともに、外国の取締機関とは、相互に情報交換等を行うなどして関係強化を図るなど、水際での薬物流入を阻止するための対策の強化に努めています。また、あらゆる捜査手法を活用し、薬物の密輸・密売等に関する薬物犯罪組織の実態解明を図るとともに、これら組織の中核に切り込み、重刑の獲得による長期社会隔離、薬物犯罪による不法収益の没収を実現するため、麻薬特例法を積極的に適用するなど、犯罪組織の壊滅に向けた取組を推進しています。

このほか、インターネット等のサイバー空間を利用した薬物密売事犯対策として、AIを用いたSNS上のサイバーパトロールやインターネット利用者等からの違法情報に関する通報を受理するインターネット・ホットラインセンター（IHCC）からの通報等により薬物密売情報の収集を強化します。

薬物の需要を根絶するための取組については、社会全体に薬物を排除する規範意識が堅持されるように、薬物乱用者の検挙を推進することに加え、薬物の危険性・有害性について正しい知識の周知を図るための広報啓発活動を推進しています。

特に、広報啓発活動については、警察だけではなく、公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターを始めとする民間団体やボランティアの皆様方と連携しつつ、官民一体となった効果的な活動を展開していきたいと考えています。

警察では、社会情勢の変化を踏まえ、「供給の遮断」及び「需要の根絶」の両面から、薬物乱用のない社会の実現に向けた施策を強力に推進してまいりますので、引き続き御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

# にみる世界の薬物問題の現状と課題(その2)

## はつらひ

国連薬物・犯罪事務所(United Nations Office on Drugs and Crime: UNODC)は、世界各国から薬物に関する情報を集め、毎年World Drug Reportとして公表しています。World Drug Reportには世界の薬物問題に関する信頼できる情報が示されています。前報<sup>1)</sup>に続き、今回は、World Drug Report 2022の5つのBooklet<sup>2)</sup>のうちBooklet 2の「世界における薬物の需要と供給の概要」(Global Overview of Drug Demand and Drug Supply)から、(その2)として、Ⅲ 薬物使用のもたらす健康被害、Ⅳ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミックの薬物使用に与えた影響<sup>3)</sup>を掲載します。

### Ⅲ 薬物使用のもたらす健康被害

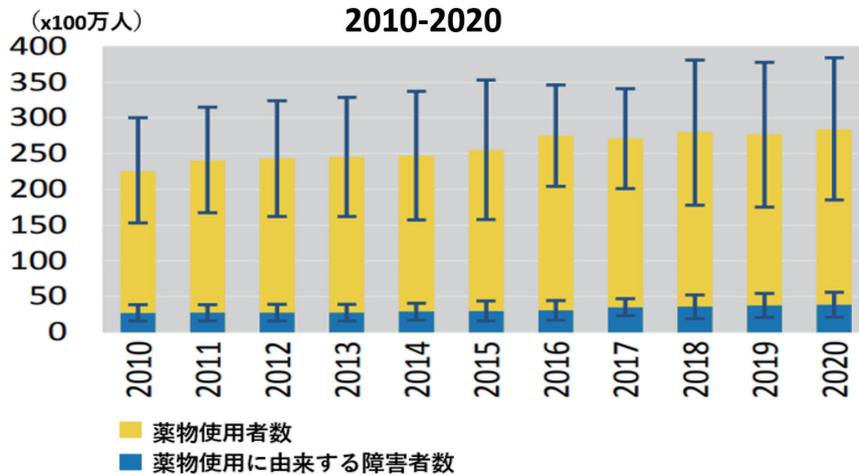
#### 1. 薬物使用障害罹患率と薬物使用障害者数

①薬物使用障害の全体的な罹患率には大きな変化はない。しかし、主に世界的な人口増加により、薬物使用障害を有する人々の数は増加している(図1)…。15〜64歳の世界人口全体としてみると、薬物使用障害は罹患率0.76%に相当します。過去1年間に薬物を使用した世界全体の推定2億8,400万人に限ってみると、その約13.6%が薬物使用障害に罹患していると推定されています。世界人口の年間割合として表される薬物使用障害の罹患率は、過去15年間にわたってほぼ一定でしたが、薬物使用障害に

岐阜薬科大学・兵庫教育大学 名誉教授

罹患していると推定される実数は、2010年の約2,700万人から2020年には約3,860万人に増加しました。これは世界総人口の増加によるものです。

図1 世界の薬物使用者と薬物使用に由来する障害者数 (x100万人)



## 勝野 眞吾

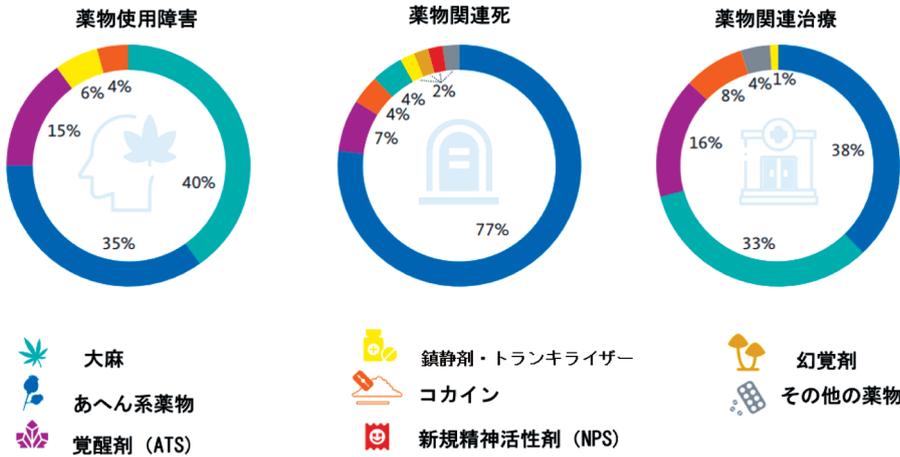
### 2. 薬物使用による健康障害

①世界におけるほとんどの薬物使用障害は大麻とあへん系麻薬に関連している(図2)…。入手可能なデータが得られた68カ国についてみると、それぞれの国内で最も多くの薬物使用障害を引き起こしている特定された薬物グループは大麻タイプの薬物です。これにあへん系麻薬、主にヘロインが僅差で続きます。薬物使用障害のリスク(危険度)は、「被害の大きさ×それが起きる確率」で表されます。大麻は、その使用の及ぼす被害が、単独ではあへん系麻薬のヘロインや覚醒剤に比べて大きくなくとも、使用者が多いために、起こる確率が高く、そのためにリスクが大きくなるのです。覚醒剤(Amphetamine-type Stimulants: ATS)、特にメタンフェタミン使用障害も、しばしば報告されています。薬物使用障害と薬物関連治療の受療は、大麻とあへん系麻薬が多く、それぞれ30〜40%を占めます。薬物関連死は、あへん系麻薬によるものが77%を占めます。

②薬物障害治療開始時の最も一般的な一次薬物に関しては、明確な地域差がある(図3)…。薬物障害治療開始時の最も一般的な一次薬物は、一部のアフリカ諸国では大麻が主要な薬物です。東ヨーロッパと南東ヨーロッパ、アジアでは、あへん系麻薬使用障害の治療が多くみられます。中南米およびカリブ海地域ではコカイン使用障害の治療を受けている者の割合が最も高くなっています。東アジアおよび東南アジア、オーストラリアおよびニュージーランドでは、覚醒剤・ATS、特にメタンフェタミンが主要薬物です。

図2

世界の各国が最も有害と報告した薬物



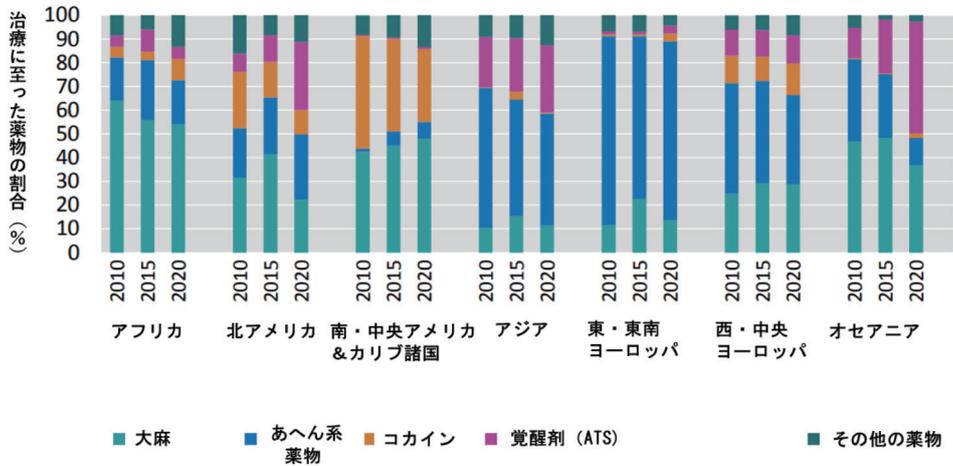
3. 薬物による直接及び関連死因

①薬物使用に関連する死亡は増加し続けている(図4)・・・薬物関連死は、2019年、世界全体で49万4,000人でした。2009年から2019年の間に薬物に起因する総死亡者数は全体として17.5%増加しました。

②あへん系麻薬は、致命的な過剰摂取が主要な死因

図3

薬物による障害の治療に至った主要薬物

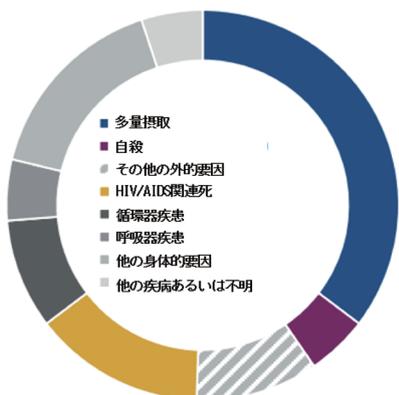


となっている・・・薬物関連の死亡率が最も高い薬物群は、あへん系薬物であり、特にその静脈注射使用者 (people who inject drugs : PWID) の死亡率が高いのが特徴です。世界の48カ国の報告では、77%の国が、直接薬物関連死を引き起こしている薬物としてあへん系麻薬を挙げています(最も頻繁にはヘロイン/モルヒネ、さらに強力なあへん系薬物、例えば Fentanyl類は、より高いリスクをもたらす)。一方、

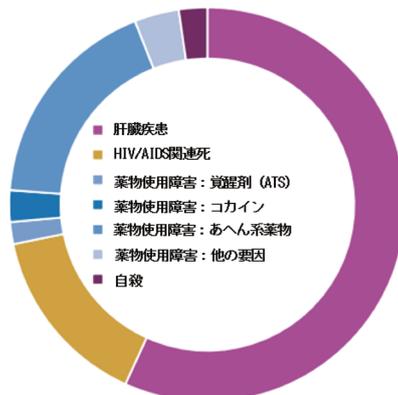
図4

薬物に関連する死因

薬物使用者の死因 (西・中央ヨーロッパ2015)



薬物使用に関連する死因 (世界全体2019)



4. 薬物静脈注射とウイルス感染症

①薬物を注射により使用する者(PWID)は、HIV 11%の国が、薬物関連死を最も多く引き起こす薬物グループとして覚醒剤(ATS)またはコカイン型薬物を挙げています。これら以外の薬物は、直接薬物関連死の主な原因として報告されることはほとんどありません。

図5

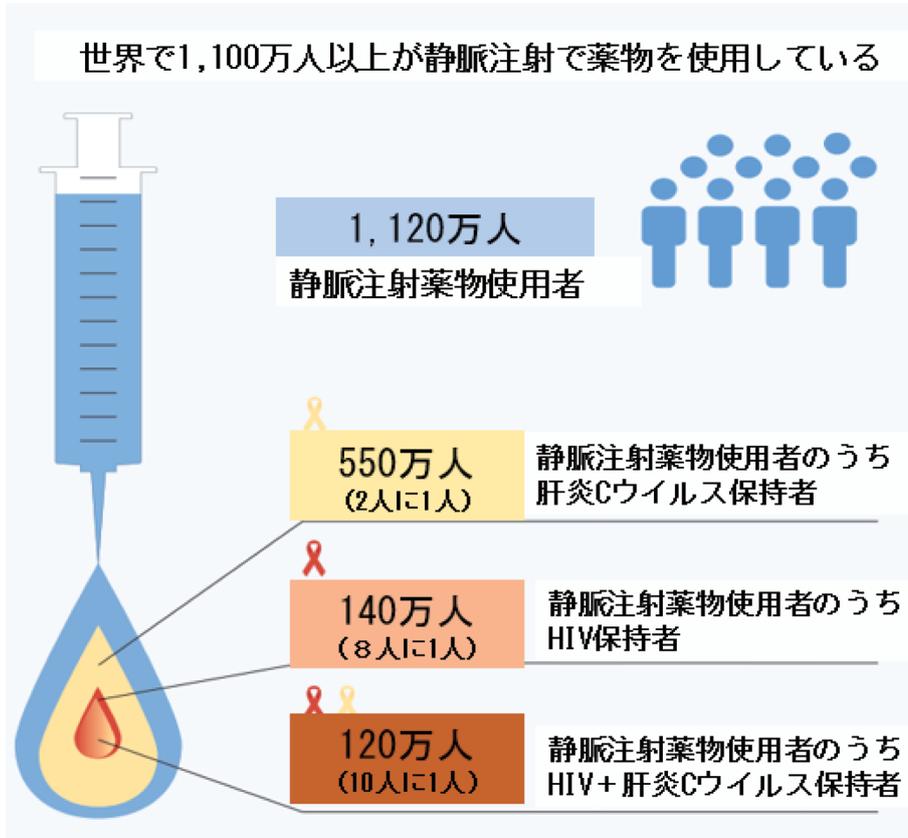


図6

ハイリスク集団におけるHIV感染リスク (2020)

ハイリスク集団		対照集団
静脈注射薬物使用者	35x	静脈注射しない集団
トランスジェンダー女性	34x	それ以外の成人
女性セックスワーカー	26x	それ以外の女性
男性同性愛者	25x	男性異性愛者

やC型肝炎の罹患リスクが高く、この傾向は今も続いている(図5、6)・・・PWIDでは、過去1ヶ月間で24%、過去1年間では33%が、注射器の共有という危険な方法で薬物を使用しています。

②薬物を注射により使用する者の約8人に1人(12・4%)がHIVに感染している。これは全世界で140万人にあたる・・・PWIDでは、そうではない集団に比べてHIV感染リスクが35倍高くなります。

③薬物を注射する者の約半数がC型肝炎に罹患して

いる。これは全世界で550万人にあたる。

**IV 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミックの薬物使用に与えた影響**

①COVID-19パンデミックの間、全体として大麻消費は増加した。これは新規使用者の増加によるものではなく、主に、既に大麻使用を経験している者の使用頻度と使用量が増えたことによると考えられる。

②COVID-19パンデミックの間、青少年の薬物使用は減少したが、これはロックダウンの期間と一致する・・・ロックダウンの間、娯楽施設での薬物使用が一時的に減少しました。特にMDMA(エクスタシー)の使用が減少しました。

③COVID-19パンデミックの間、ベンゾアゼピン、トランキライザー、その他の精神系医薬品の非医療的使用が増加した。

④COVID-19パンデミックにより薬物常習者はあまり影響を受けなかった。しかし、薬物使用に起因す

る障害を持つ者では、離脱症状や再発の頻度が増えた。治療に対する意欲を喚起するような十分な医療・ケアサービスが対応できなかった。COVID-19パンデミックにより薬物使用予防、薬物関連障害の治療およびに関するサービス提供体制の崩壊が起りました。また、薬物使用者に対するサービスが閉鎖され、対面での対応が限定されたり、減少したりしました。

⑤薬物使用者は、優先グループであったにもかかわらず、新型コロナウイルスワクチンの予防接種率が低かった。これは、薬物使用者は医療システムに対する信頼感が低いため、アクセスに障壁があったことが要因と考えられる。サービス提供のあり方の革新(例えば電話による診断)がパンデミック後導入されました。しかし、うまく実施できるようにするためには、多くの課題が残されています。

## おわりに

World Drug Report 2022には、薬物使用による健康被害が深刻な形で世界に広がっている現状が報告されています。そして、世界におけるほとんどの薬物使用障害は大麻とあへん系麻薬に関連しているという事実を信頼できるデータで示しています。特に、大麻に関しては、我が国でもその有害性を軽視する論調があります。しかし、大麻グループの薬物使用は、最も危険な薬物といわれているあへん系薬物よりもむしろ多くの健康障害を世界で引き起こし、薬物関連疾患の治療が必要な状況をもたらしつつあります。

World Drug Report 2022の前書きにある「薬物政策のアプローチに関する議論では、非医療目的での薬物使用が有害であるという事実を根ざした、この基本的で共有された理解が忘れ去られることがあまりにも多い。」この現実に向き合うことが必要

です。

幸い、我が国は前報に示したように、世界でも薬物乱用が最も少ない国のひとつであり、薬物関連の健康障害の罹患率も高くありません。この事実を肯定的にとらえ、この状況をさらに良くして行こうとするスタンスを持つことが大切です。このスタンスは、薬物使用に対する一次予防(薬物乱用防止)を重視することであり、また、それが少数であっても薬物使用を経験し、薬物関連の問題や健康障害で苦しんでいる人たちへのケアと支援(二次予防、三次予防)を重視することでもあります。

薬物使用は、人間が行う危険行動です。従って、薬物使用流行には、社会的、文化的、歴史的背景が色濃く反映します。薬物問題は、現代社会のありようそのものを映す鏡でもあります。2019年末からCOVID-19のパンデミックは、世界の薬物問題にも様々な影響を与えました。World Drug Report 2022には、その影響の一部が報告されています。COVID-19のパンデミックの影響は社会全体に複雑な形で及んでいます。次年度以降のWorld Drug Reportにはその薬物問題への影響がさらに詳しく報告されると思います。

なお、World Drug Report 2022 Booklet 3の大麻関連のレポートの全訳は、参考文献3に示してあります。

(注1) UNODCはWorld Drug Reportの非営利目的の要約・翻訳を許しています。図表は原典を活かして忠実に筆者が翻訳したものです。

(注2)世界的には、Drug useあるいはSubstance useという用語が、日本で通常用いられる「薬物乱用」をさして使われることが多くあります。本稿では、Drug useを「薬物使用」としましたが、「薬物乱用」と読みかえても大きな問題はありません。

## 参考文献

- 1 勝野真吾「UNODCのWorld Drug Report 2022にみる世界の薬物問題の現状と課題(その1)：麻薬・覚醒剤乱用防止センター ニュースレター第108号 2021年5ページ、2023」
- 2 World Drug Report 2022: Booklet 1: Executive Summary Policy Implications. Booklet 2: Global Overview of Drug Demand and Drug Supply, Booklet 3: Drug Market Trends of Cannabis and Opioids, Booklet 4: Drug Market Trends of Cocaine, Amphetamine-type Stimulants and Psychoactive Substances, Booklet 5: Drugs and Environment, UNODC 2022
- 3 JYHL 参考資料 2022 <https://www.jyhl.org/> 参考文献

# 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動・国連支援募金 令和5年度の啓発活動状況

## 厚生労働大臣メッセージ

今日、大麻をはじめとして覚醒剤、麻薬などの薬物の乱用が深刻な社会問題となっています。

これらの薬物を乱用すると、自分の意思では止めることが極めて難しくなります。自らの体や心をむしばむだけでなく、家族や周りの人々にも大きな影響を与えるため、絶対に使用してはいけません。

令和4年の大麻の検挙者数は、過去最多を更新した令和3年に続く高い水準です。とりわけ、若年層の大麻乱用が顕著で、大麻の検挙者数の約七割を三十歳未満が占めています。

SNS等では、一部の外国で「大麻が合法化しているから安全」といった誤った情報や、大麻の密売を持ちかけるような投稿も多くあります。

しかし、大麻は決して安全でなく脳に影響を及ぼすものであり、若年期からの大麻使用が乱用と依存の危険性を高めることが懸念されています。

薬物乱用から自分自身を守るためには、どんな人から誘われても、立ち止まって冷静に考えること、きっぱりと断る勇氣を持つことが何よりも大切です。皆様一人ひとりが、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、薬物乱用防止の輪を大きく広げていただき、ともに薬物乱用の無い社会を作っていきましょう。

令和五年六月二十四日

厚生労働大臣 加藤勝信



厚生労働省、都道府県(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターが主催し、国際連合(薬物犯罪事務所)、警察庁など関係省庁の協賛及びボーイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ、ロータリークラブなどの民間団体後援のもとに「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及びその一環としての「6・26ヤング街頭キャンペーン」が、6月24・25日を中心に約一カ月間、各都道府県ごとに、地域の実情に配慮した上で実施されました。

本普及運動は、国内における薬物乱用防止活動において官民一体となり、国民一人一人の薬物乱用問題に関する意識を高めるとともに国連総会決議に基づく「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」の周知を図ることに、内外における薬物乱用防止に資することを目的としています。

この普及運動と並行して、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、麻薬乱用防止活動に従事する民間団体の活動資金を国連を通じて支援するための「国連支援募金」運動を実施し、本年も全国から善意の浄財が集まりました。

また同期間中には、各種薬業関係団体、理・美容、クリーニング、浴場、飲食業等の各環境衛生同業組合等のご協力により、店頭でののぼり、ポスター掲出による啓発募金運動などを行なう「地域団体キャンペーン」も地域の実情に沿った運営方式により実施されました。

以下、感染防止を踏まえた都道府県ごとの啓発活動の取り組み状況をご報告いたします。

## 北海道

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月20日から7月19日まで (新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の地区では時期を変更して実施)	全道179市町村で実施	北海道、北海道警察本部、北海道薬物乱用防止指導員連合協議会、北海道薬物乱用防止指導員各地区協議会(21地区)、ヤングボランティア(ボースカウト、ガールスカウト、中学生、高校生、大学生等)、薬業関係団体、保護司会、青少年育成団体、関係行政機関等	約500人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 北海道薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア、薬業関係団体会員、保護司、民生委員、警察官、市町村職員、保健所職員等が、地域の各種イベントにおいて、道民を対象に、覚醒剤や大麻等の薬物の乱用防止に関するチラシやポケットティッシュ等の啓発資材を配布するとともに、のぼりやポスターを掲示し、薬物乱用防止への理解と協力についての呼びかけを実施。 ②地域団体キャンペーン 道内の薬局、薬店、道の駅、温泉、スーパー、関係行政機関等の協力を得て、麻薬・覚醒剤等の乱用防止に関するリーフレット及びポスターの配布を行うとともに、協力団体の店頭でのポスター掲示や国連支援募金箱設置等の協力を要請。



北海道

## 青森県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月25日、7月11日	(青森市)青森市(JR青森駅前) (弘前市)さくら野百貨店弘前店 (八戸市)八戸市中心街商店街 はちのへホコテン会場	主催 青森県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 協力団体(二社)青森県薬剤師会、(二社)青森県医薬品登録販売者協会、(二社)青森県医薬品配置協会、ライオンズクラブ、青森県薬物乱用防止指導員青森・弘前・八戸地区協議会、青森市、八戸市、青森県	(青森市)45人 (弘前市)88人 (八戸市)67人	6・26ヤング街頭キャンペーン 例年、青森市、弘前市、八戸市の3か所にて6・26ヤング街頭キャンペーンとして、通行人等に対し啓発用パンフレット、バンソウコウ等の配布をするとともに薬物乱用防止の呼び掛けを行い、併せて「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金活動を行っている。



青森県

## 岩手県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月24日、25日	①二戸保健所(6月25日) 道の駅おりつめ・産直オドデ館前(九戸村) ②宮古保健所(6月25日) マリンコープDORA(いわて生活協同組合)(宮古市) 計2箇所	岩手県薬物乱用防止指導員、九戸村立江刺家小学校・長興寺小学校児童、二戸保健所、宮古保健所	①二戸 38人 ②宮古 7人 計45人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内2会場にて、薬物乱用防止指導員等の協力のもと、一声運動、リーフレット等の配布により、薬物乱用防止啓発を行った。 ②地域団体キャンペーン 県薬剤師会、県生活衛生同業組合等の協力店舗においてポスター掲示、薬物乱用防止の呼び掛けを行った。



岩手県

## 宮城県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月25日～7月29日	ゆりあげ港朝市、かわまちテラス閉上、SEASONS WALKフォルテ、陸上自衛隊 仙台駐屯地、くりこま山車まつり会場、各地区イオングループ店舗 計8か所	宮城県、薬物乱用防止指導員、食品衛生協会、高校生ボランティア、ライオンズクラブ、各地区薬剤師会、各市町村 等	約230人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 各会場において、薬物乱用防止指導員、高校生ボランティアが中心となり、啓発資材(リーフレット・絆創膏等)の配布、募金活動等を実施したほか、のぼりやパネル、薬物標本等を展示し、薬物乱用防止への理解と協力を呼び掛けた。一部会場では、薬物乱用防止啓発訪問事業によるクイズパネルや的当てセットを活用して実施した。 ②地域団体キャンペーン 県内68の後援団体に対してポスターを送付し、事業所への掲示等県民への啓発活動に協力を依頼した。



宮城県

## 秋田県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月20日～7月19日	秋田駅東西連絡自由通路ぼほろーど(秋田市)6月26日 JR大館駅前(大館市)6月27日 イオンスーパーセンター本荘店(由利本荘市)6月27日 イオンスーパーセンター横手南店(横手市)6月27日 いとく鷹巣ショッピングセンター(北秋田市)7月8日 イオンタウン鷹巣(北秋田市)7月8日 雄勝文化会館オービオン(第37回湯沢市ふれあい広場)会場内(湯沢市)7月9日 計7カ所 北秋田市ふれあいプラザ コムコム(パネル展示)	「ダメ。ゼッタイ」普及運動 秋田県実行委員会(大館鹿角地域、本荘由利地域、鷹巣阿仁地域、大曲仙北地域、能代山本地域、横手平鹿地域、秋田周辺地域、湯沢雄勝地域)	109人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内7カ所で街頭キャンペーンを実施した。ヤングボランティア(高校生・大学生等)の協力を得て、駅などの公共施設、商店街、大型ショッピングセンター等において横断幕、のぼり等を活用しながら、「ダメ。ゼッタイ」一声運動、厚生労働大臣メッセージ伝達、ポケットティッシュやリーフレットなどの啓発資材の配布、国連支援募金活動を実施した。 鷹巣阿仁地域実行委員会が主体でポスター展示会を開催した。

②地域団体キャンペーン  
「ダメ。ゼッタイ」普及運動地域実行委員並びに薬物乱用防止指導員等の協力により、薬局や病院等にてポスターの掲示、リーフレットの配布、募金箱の設置、各団体の会合等での呼びかけ(趣旨の周知、募金への協力)、新聞広告による周知を行った。



秋田県



## 山形県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月20日、24日、26日	① 6・26ヤング街頭キャンペーン イオンモール山形南、エスモール施設入口 ② 駅前街頭キャンペーン J R 山形駅、J R 新庄駅、J R 米沢駅、J R 南米沢駅、J R 酒田駅	県内各保健所	78人	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 6月24日に県内のショッピングモール2ヶ所において、ヤングボランティア(高校生等)、薬物乱用防止指導員及び関係団体の協力を得て、買い物客等に薬物乱用防止を呼びかけるとともに、リーフレット等の啓発資料の配布を行った。 ② 駅前街頭キャンペーン 6月20、26日に山形県薬剤師会等の関係団体の協力を得て、県内主要駅において、主に通学中の高校生を対象に薬物乱用防止の呼びかけ及び啓発リーフレット、ティッシュ等の配布を行った ③ 地域団体キャンペーン 39協賛団体にポスター、リーフレット、募金箱を送付し、各団体構成員への薬物乱用防止の啓発及び国連支援募金活動への協力を依頼した。



山形県

## 福島県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月20日～7月19日	福島市、伊達市、二本松市、郡山市、田村市、須賀川市、石川町、白河市、棚倉町、鮫川村、会津若松市、喜多方市、会津坂下町、南会津町、南相馬市、いわき市 計16市町村21ヶ所 (郡山市は8月8日にキャンペーン実施)	県、県薬物乱用対策推進本部、「ダメ。ゼッタイ。県普及運動実行委員会、各地区薬物乱用防止指導員協議会(県内16地区)、関係団体、ヤングボランティア(中学生、高校生、専門学校生、ボーイスカウト、ガールスカウト等)	800人	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 「ダメ。ゼッタイ。普及運動期間中に、県内16市町村21ヶ所において6・26ヤング街頭キャンペーンを開催した。また、キャンペーン開会式の際に、ヤングボランティアが薬物乱用撲滅宣言を行った。 なお、各地区のキャンペーンでは、薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア、関係団体の協力を得て、J R 駅前、ショッピングセンター等においてリーフレット、ポケットティッシュ、風船などを配布しながら薬物乱用防止を訴えるとともに、ヤングボランティアが中心となり、国連支援募金活動を実施した。 ② 地域団体キャンペーン 関係行政機関、企業、薬局等の協力を得て、ポスター掲示やパンフレット配布を行い、また、国連支援募金活動を通じて一般住民等への啓蒙活動を行った。 ③ その他 全国高等学校野球選手権福島大会が実施されている3カ所の球場に横断幕「薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を掲示し、啓発を図った。



福島県

## 茨城県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月20日～7月19日	水戸市、小美玉市、笠間市、大洗町、ひたちなか市、常陸太田市、日立市、鉾田市、土浦市、つくば市、つくばみらい市、常総市、筑西市、坂東市、古河市 計20カ所(①、③合計)	茨城県、茨城県薬物乱用対策推進本部、茨城県薬物乱用防止指導員協議会、関係団体、関係機関、ヤングボランティア(中学生)	562人	① 6・26街頭キャンペーン 県内12カ所で、薬物乱用防止指導員が中心となり、中学生のヤングボランティアに加え、薬事関係団体、ライオンズクラブ、青少年育成協会、市町村、警察等の協力を得て、街頭において、リーフレット、ポケットティッシュ等の啓発資料を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。併せて、国連支援募金活動を行った。また、各地区において広報誌等を利用して地域に根ざした啓発活動を効果的に実施した。

月 日	6月10日～7月19日
開催場所	栃木県庁舎本館周辺、カンセキスタジアムとちぎ等
活動主体	栃木県、宇都宮市

## 栃木県



茨城県

②地域団体キャンペーン  
県内の薬局等の薬事関係施設、理・美容所、旅館等の生活衛生営業施設、食品関係施設、病院・診療所、大学・専門学校等約3,000の店舗・施設の協力を得て、ポスターの掲示やリーフレットの配布を実施した。併せて店頭等に募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。

③その他  
夏季茨城県高等学校野球大会会場(5球場)において横断幕の掲示を行い、選手、来場者、ケーブルテレビ視聴者に対する啓発を行った。  
また、茨城空港、県庁2階広報コーナーにおいて、薬物乱用防止啓発パネル及び薬物標本の展示を行った。大洗駅、県庁2階広報コーナーにおいて、啓発メッセージ動画の放映を行った。

月 日	6月20日～7月27日
開催場所	前橋地区(JR前橋駅、JR新前橋駅)、高崎地区(JR高崎駅西口、JR高崎駅東口ペDESTリアンデッキ)、渋川地区(JR渋川駅)、伊勢崎地区(JR伊勢崎駅)、安中地区(新島学園中学校・高等学校)、藤岡地区(JR群馬藤岡駅)、富岡地区(上信電鉄上州七日市駅、群馬県立富岡高等学校前)、吾妻地区(JR中之条駅)、利根沼田地区(JR沼田駅)、太田地区(新田ショッピングセンターニコモール、ジョイフル本田新田店)、桐生地区(マーケットシティ桐生)、館林地区(東武鉄道館林駅、東部鉄道東小泉駅) 計17カ所

## 群馬県

活動状況  
①地域団体キャンペーン  
【栃木県】(6月10日)  
「県民の日」記念事業において、来庁者に薬物乱用防止啓発リーフレット等の啓発資材を200部配布。  
【宇都宮市】(6月24日)  
J2栃木SCの試合会場において、啓発資材を2000部配布

②その他  
【栃木県】  
以下の取組を実施し、薬物に関する正しい知識の普及啓発を行った。  
・県ホームページや県公式「Twitter」での啓発  
・県庁内展示スペースを活用した違法薬物の模型や啓発ポスター等の展示  
・地元テレビにおける啓発番組の放映  
・プロの劇団を活用した中学生に対する啓発演劇を期間中 8回上演  
・小学5・6年生及び中高生全員に対し、夏季休業前に啓発リーフレット枚150,000枚を配布



群馬県

活動主体	群馬県、前橋市、高崎市、群馬県薬物乱用対策推進本部、群馬県「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用防止推進連絡会議、「ダメ。ゼッタイ。」各地区推進連絡会議(12地区)、ヤングボランティア(高校生、大学生等)、関係団体(薬剤師会、保護司会、民生委員児童委員協議会、少年補導員連絡会、医薬品配置協会、ライオンズクラブ、更生保護女性会、食品衛生協会、ロータリークラブ等)
参加人員	299人
活動状況	①県内17カ所、薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア、関係団体、警察関係職員、県職員、保健所及び保健福祉事務所職員、市町村職員等、合計299人が駅前やショッピングセンター、高校等において、薬物乱用防止啓発リーフレット、大麻乱用防止啓発リーフレット、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布しながら薬物乱用防止を呼びかけた。 ②地域団体キャンペーンとして、薬局や飲食店、理容店、クリーニング店、旅館等の協力を得て、ポスターの掲示及び一声運動を実施し、併せて店頭で募金箱を設置してもらい国連支援募金活動への協力を呼びかけた。 ③7月8日から27日までの期間、第105回全国高等学校野球選手権群馬大会が実施された上毛新聞敷島球場及び高崎市城南野球場に「ダメ。ゼッタイ。」の横断幕を掲出した。 ④7月9日にザスパクサツ群馬の試合会場にて、群馬県警察本部と合同で、来場者に対し薬物乱用防止啓発を実施した。

## 埼玉県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	イオンモール川口前川店、北朝霞駅、朝霞台駅、越谷市民球場、草加朝顔市会場、大宮駅、嵐山夏祭り会場、坂戸駅、北坂戸駅、若葉駅、所沢ベルーナドーム、行田市教育文化センター、加須駅、久喜提燈祭り会場、熊谷うちわ祭会場、本庄祇園まつり会場、秩父あめ薬師縁日会場
活動主体	埼玉県、埼玉県薬物乱用防止指導員連合協議会、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動埼玉県実行委員会、埼玉県警察本部、埼玉県教育委員会、各市町村、(一社)埼玉県薬剤師会、ライオンズクラブ3301C地区、日本ボーイスカウト埼玉県連盟など
参加人員	約200人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 駅頭等において、のぼり等を掲示するとともに、リーフレット、ポケットティッシュ及びうちわ等の啓発資材を配布した。 ②地域団体キャンペーン 関係団体の店頭等にポスター掲示及び募金箱設置を行い、国連支援募金の呼びかけを行った。 ③その他 県広報誌や市町村広報紙等の様々なメディアを活用し、薬物乱用防止の広報を実施した。また、県内の学校や関係団体・企業ヘリーフレットを配布し、国連支援募金の呼びかけを行った。



埼玉県

## 千葉県

月 日	6月11日～7月29日
開催場所	いすみ市、市川市、市原市、習志野市、東金市、鴨川市、館山市、柏市、松戸市、四街道市、千葉市、船橋市、野田市、銚子市、香取市、木更津市、茂原市 計17箇所
活動主体	千葉県、千葉県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、千葉県薬物乱用防止指導員協議会
参加人員	539人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内17ヶ所において、各薬物乱用防止指導員地区協議会が中心となり、警察署、市町村の関係機関やライオンズクラブ、ロータリークラブ等の関係団体及びボーイスカウト、ガールスカウト等のヤングボランティアの協力を得て、うちわ、ポケットティッシュ、リーフレット等啓発資材の配布を行い薬物乱用防止を訴えた。 ②地域団体キャンペーン 医師会、歯科医師会、薬剤師会、業業会、理美容組合、クリーニング組合等の協力を得て、関係施設にポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し、薬物乱用防止を訴えた。



千葉県



③ 広報啓発活動  
県ホームページ、ラジオCM、新聞等の媒体を通じて薬物乱用防止を訴えた。



# 東京都

月 日	① 6月25日 ②③ 6月20日から7月19日までの期間
開催場所	①「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」都民の集い(池袋西口公園野外劇場) ②行政機関(都保健所 他)
活動主体	①都民の集い(主催:東京都、東京都薬物乱用対策推進本部、東京都薬物乱用防止推進協議会、厚生労働省(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター 共催:豊島区、警視庁) ②行政機関
参加人員	①約1500人
活動状況	①都民の集い ▲催し物▼ (1)主催者挨拶(2)警視庁音楽隊の演奏(3)警察犬(薬物捜索犬)デモンストレーション(4)啓発動画放映▲企画展示等▼ (1)薬物乱用防止等企画展示(ポスター・パネル等) (2)啓発リーフレット・グッズ配布(3)国連支援募金活動(4)着ぐるみ「ダメ。ゼッタイ。君、ピーポくん」による啓発活動(5)警視庁キャラバンカー ②地域団体キャンペーン 関係行政機関及び民間団体等にリーフレット及びポスターの配布を行うとともに、協力団体の店頭でのポスター掲示及び国連支援募金箱の設置等の協力要請を行った。 また、関係行政機関において薬物乱用防止啓発ブースを設置し、来所者に対し薬物乱用防止を訴えた。 ③その他 都ホームページ、都広報誌などのメディアや、都及び都保健所のデジタルサイネージを活用し、薬物乱用防止に関する内容を掲載した。 また、Twitter及びYouTubeで啓発動画を放映し、主に若年層に対して薬物乱用防止を訴えた。

# 神奈川県

月 日	7月5日ほか
開催場所	横浜駅等
活動主体	県薬剤師会、神奈川県、薬物クリーンかながわ推進会議(薬物乱用防止指導員協議会、麻薬等薬物相談員会、保護司会連合会、横浜税関、県内関係機関等182団体)、市町村、教育委員会、県警察本部等
参加人員	約2200名(横浜駅)
活動状況	薬物クリーンかながわ推進会議が中心となり、「ダメ。ゼッタイ。普及運動の実施期間中に県内各地において、各関係機関・団体及び市町村にポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。 特に、7月5日に横浜駅において、関係団体等の協力を得て「ダメ。ゼッタイ。普及運動街頭キャンペーン」を実施した。着ぐるみ「ダメ。ゼッタイ。君も駆けつけ、リーフレット等の啓発資料の配布による薬物乱用防止の呼びかけを行うとともに、横断幕やポスターを活用し、普及啓発を行った。 その他、県内大学において学生向けの情報提供を目的に開設しているサイトを活用し、県内の大学生に向けて薬物乱用防止を呼び掛けた。



東京都

# 新潟県

月 日	6月24日ほか
開催場所	村上市、新発田市、三条市、長岡市、魚沼市、南魚沼市、十日町市、柏崎市、上越市、糸魚川市、佐渡市、新潟市 12市12カ所
活動主体	新潟県、新潟県薬物乱用対策推進本部(新潟県教育委員会、新潟県警察本部、新潟地方検察庁、新潟海上保安部、新潟保護観察所、新潟税関支署、新潟労働局、新潟少年鑑別所、東京出入国在留管理局新潟出張所、(二社)新潟県医師会、新潟県精神科病院協会、(公社)新潟県薬剤師会、新潟県市長会、新潟県町村会、新潟県薬物乱用防止指導員、(一社)新潟県歯科医師会、新潟県青少年健全育成県民会議(社福)新潟県社会福祉協議会、日本ボーイスカウト新潟連盟、(二社)ガールスカウト新潟連盟、国際ロータリー第2560地区ガバナー事務所、ライオンズクラブ国際協会3331-A地区、(公社)新潟県防犯協会、(公社)新潟県食品衛生協会、(公財)新潟県生活衛生営業指導センター、(一社)新潟県医薬品登録販売者協会、新潟県医薬品配置協議会、日本医薬品卸勤務薬剤師会新潟県支部、新潟県高等学校野球連盟、新潟県ラグビーフットボール協会



神奈川県

**参加人員**

約200人

**活動状況**

①6・26ヤング街頭キャンペーン  
県内12会場において、高校生ボランティアや薬物乱用防止指導員等各関係団体の協力を得て、リーフレットなどの啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。また、同時に国連支援募金も行った。

②YouTube広告等

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間(6・20～7・19)に合わせて、昨年度新潟県警察ノードラッグ大使に就任した佐渡市の太鼓芸能集団「鼓童」からいただいたメッセージ動画をYouTube広告として配信した。

7月7日(金)に行われたサッカー「リーグ、アルビレックス新潟のホームゲームにて、新潟県警察ノードラッグ大使のNeggico(アイドルユニット)からいただいたメッセージ動画を大型スクリーンで放送した(試合前)。

③その他

全国高校野球選手権大会期間中、会場のハードオフエコスタジアムに薬物乱用防止啓発の横断幕を掲出し、高校生をはじめ広く県民に啓発した。

県庁構内等で薬物乱用防止啓発の横断幕やポスターを掲出するとともに、庁舎内の生協売店や金融機関等に国連支援に係る募金箱を設置し、来庁者等に対して啓発を行い、募金の協力を呼びかけた。



新潟県

**富山県**

月日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
7月1日	富山市、高岡市、魚津市、滑川市、砺波市 計5市5ヶ所	富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会(41団体) ○6・26街頭キャンペーン参加者 ・富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 (二社)富山県医薬品登録販売者協会、ガールスカウト富山県連盟、(公財)富山県防犯協会、(公社)富山県薬剤師会、国際ソロプチミスト、富山県少年警察ボランティア連絡協議会、富山県塗料商同業会、富山県内少年補導センター連絡協議会、富山県保護司会連合会、ライオンズクラブ国際協会3341D地区(五十音順) ・警察職員、県職員、富山市保健所職員	130人	薬物乱用防止指導員、ボランティア団体等が、県下五会場(繁華街、ショッピングセンター等)において横断幕やのぼりを掲示し、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、リーフレット、ポケットティッシュの啓発資材を配布した。併せて、国連支援募金活動を実施した。青少年が集うイベント(第105回全国高等学校野球選手権富山大会)において、会場での横断幕・ポスター掲示を行うとともに、場内放送及び啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。 また、富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会参加団体の協力を得て、店頭等でのポスターの掲示や啓発資材の配布を行うとともに、国連支援募金運動への協力を呼び掛けた。 その他、交通広告を利用し、薬物乱用防止広報活動を実施した。



富山県

**石川県**

月日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月25日ほか	金沢市、小松市、白山市、七尾市、輪島市 計5会場	県、警察本部、金沢市保健所、薬剤師会、保護司会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、ライオンズクラブ、更生保護女性連盟、BBS連盟、ボーイスカウト、ガールスカウト等	210人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 金沢駅前や大型ショッピングセンターなど県内5会場において、ヤングボランティア(ボーイスカウト、ガールスカウト)、薬物乱用防止指導員及び薬業団体の会員が中心となり、会場を訪れた買い物客等にリーフレットやポケットティッシュ等の啓発資材を配布し、広く県民に薬物乱用防止を訴えらるとともに、ヤングボランティアが国連支援募金への協力を呼びかけた。

② 地域団体キャンペーン

6月20日から7月19日までの期間、薬剤師会等の地域団体の協力を得て、薬局や生活衛生営業施設等にポスターを掲示するとともに、募金箱を設置し、薬物乱用による危害について一声かける「一声運動」を実施するとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。

③ 青少年への啓発活動

7月11日から開催された第105回全国高等学校野球選手権石川大会の期間中に、関係機関の協力を得て、ポスターや横断幕を掲示し、球場に応援に来た学生ら若者に薬物乱用防止の啓発を行った。



石川県

福井県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月17日、24日、25日	福井市、坂井市、勝山市、鯖江市、敦賀市、小浜市 県内計6か所	県、各警察署、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、日本ボーイスカウト福井連盟、(二社)ガールスカウト福井県連盟	約200人

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン

県内6か所のショッピングセンター等で、ヤングボランティア(ガールスカウト、ボーイスカウト)、薬物乱用防止指導員が中心となって、啓発物(リーフレット、ティッシュ、風船等)の配布、ポスターやのぼり旗等を使用した街頭キャンペーンを実施し、薬物乱用防止の呼びかけおよび国連支援募金活動を行った。

② 地域団体キャンペーン

病院・診療所・歯科診療所、薬局・薬店等の各関係機関・団体および市町に、ポスターの掲示および募金箱の設置を依頼し、薬物乱用防止の普及啓発と国連支援募金への呼びかけを行った。

③ その他

6月19日から1週間、福井県庁1階ホールで薬物乱用防止啓発パネル展を実施した。また、キャンペーン期間に限らず、各学校の要望に応じて薬物乱用防止啓発パネル展および薬物乱用防止教室を実施し、若年層への薬物乱用防止について啓発を行った。



福井県

山梨県

月日	開催場所	活動主体	参加人員
6月24日	ショッピングセンター、道の駅等 合計 7箇所	県、県薬物乱用対策推進本部、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、県警察本部、警察署、市町村、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、医師会、歯科医師会、薬剤師会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、クリーニング生活衛生協同組合、学校、ボーイスカウト、ガールスカウト等	約360人

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン  
県内の4保健所単位の各地区薬物乱用防止指導員協議会が中止となり、各関係機関・団体等の協力を得る中で、参加学生代表による「ダメ。ゼッタイ。」普及運動」における厚生労働大臣メッセージの披露をはじめとした式典を開催した。その後、参加学生やボーイスカウト等が中心となって、リーフレットその他の啓発資料の配布等による薬物乱用防止の呼びかけを行うとともに、国連支援街頭募金活動を行った。

② 地域団体キャンペーン  
運動期間中、各関係機関・団体や市町村役場等にリーフレットその他啓発資料等の配布を行うとともに、ポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。



## 長野県

参加人員	活動主体	開催場所	月 日
568人	県、県薬物乱用対策推進協議会、地区薬物乱用対策推進協議会、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、県医薬品卸協同組合、県製薬協会、県医薬品配置協議会、県保護司会連合会、県子ども会育成連合会、ライオンズクラブ国際協会334-E地区、国際ロータリー第2600地区、県ホテル旅館生活衛生同業組合、県美容業生活衛生同業組合、県クリーニング生活衛生同業組合、県理容生活衛生同業組合、県公衆浴場業生活衛生同業組合、日本ボーイスカウト長野県連盟、ガールスカウト長野県連盟	イオンモール佐久平前、J R佐久平駅前、アリオ上田店前、レイクウォーク岡谷、ベルシャイン駒ヶ根店前、アピタ飯田店前、イオン木曾福島店、J R松本駅前、フレスポ大町、大町岳陽高等学校前、池田工業高等学校前、白馬高等学校前、綿半スパークセンター千曲店、イオン中野店、長野駅前 計 13市町村 15ヶ所	6月19日～6月25日



山梨県

### 活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン  
 県下15ヶ所において、ボーイスカウト・ガールスカウトの青少年や、薬物乱用防止指導員、ライオンズクラブ・ロータリークラブ会員、保護司、業関係者、行政機関職員等568人が、通行人18,013人に啓発用のチラシやポケットティッシュ等を配布して薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。

② 地域団体キャンペーン  
 病院・診療所・歯科診療所、薬局・薬店、理・美容所、クリーニング店、ホテル・旅館、公衆浴場、自動車教習所等約9,000施設において、ポスターの掲示と一声運動を実施した。

また、薬局・薬店約1,100店舗の店頭で募金箱を設置し、国連支援募金に協力した。



長野県



## 岐阜県

参加人員	活動主体	開催場所	月 日
約300人	① 6・26ヤング街頭キャンペーン J R岐阜駅前、ショッピングセンターなど県下12ヶ所において、薬物乱用防止指導員をはじめとするボランティアが会場を訪れた方々に啓発資材（パンフレット、ティッシュペーパー）を配布し、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」を合言葉に薬物乱用防止を訴えるとともに、「ボーイスカウト、ガールスカウトらが国連支援募金への協力を呼び掛けた。参加者は、『ダメ。ゼッタイ。』普及運動ののぼり旗を掲げ、タスキや啓発用帽子を着用して積極的に活動した。 J R岐阜駅前会場では、キャンペーンキャラクター「ダメ。ゼッタイ。君」に加え、「清流の国ぎふ」マスコットキャラクター「ミナモ」の応援も得て若者へのPRに努めた。 ② 地域団体キャンペーン 岐阜県薬物乱用対策推進本部を構成する各団体、県内各高等学校、大学等に対して、ポスターの掲示や募金箱の設置等の協力依頼を行った。 また、小学校、中学校、高等学校で開催している薬物乱用防止出前講座において、児童、生徒に対して、薬物に関する正しい知識と薬物乱用防止について啓発を行った。	岐阜県、各務原市、本巣市、大垣市、揖斐郡池田町、関市、美濃加茂市、郡上市、多治見市、中津川市、高山市、下呂市 計 12ヶ所	6月24日～26日

## 静岡県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員
① 6月26日、② 6月28日、③ 6月30日、 ④ 7月3日	① JR御殿場駅、② JR磐田駅、③ JR浜松駅、④ JR熱海駅	(一社)日本ボーイスカウト静岡県連盟、(一社)ガールスカウト静岡県連盟、ライオンズクラブ国際協会3341C地区、国際ロータリー第2620地区、国際ソロプチミスト静岡、(一社)静岡県医師会、(一社)静岡県歯科医師会、(公社)静岡県薬剤師会、静岡県医薬品登録販売者協会、(公社)静岡県病院協会、静岡県配置医薬品協議会、静岡県医薬品卸業協会、静岡県製薬協会、静岡県理容生活衛生同業組合、静岡県美容生活衛生同業組合、静岡県クリーニング衛生同業組合、静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合、(一社)静岡県食品衛生協会、静岡県保護司会連合会、静岡県更生保護女性連盟、静岡県カラオケBOX協会、日本塗料商業組合静岡県支部	102人



岐阜県

## 活動状況

- ① 6・26ヤング街頭キャンペーン  
6月26日、6月28日、6月30日及び7月3日に、県内の主要な駅4か所において、市、県警及び薬物乱用防止指導員の協力を得て、リーフレットやポケットティッシュ等の啓発資材を配布するとともに、薬物乱用防止の声掛けを行い、広く県民に対し薬物乱用防止を訴えた。
- ② 地域団体キャンペーン  
各市町及び関係団体等の協力を得て、県内各所においてポスターを掲示するとともに、募金箱を設置して国連支援募金への協力の声掛けを行った。
- ③ その他の啓発活動  
・7月9日に藤枝総合運動公園サッカー場(藤枝市)で開催されたJリーグサッカー試合会場(藤枝MYFC VS ヴァンフォーレ甲府)において、来場者にポケットティッシュの配布及び薬物乱用防止の声掛けを行った。また、試合会場に設置されたマルチビジョンにおいて、県独自で制作した大麻乱用防止啓発動画(15秒)の発信を行った。  
・7月14日清水駅で、ライオンズクラブと合同でポケットティッシュの配布及び薬物乱用防止の声掛けを行った。  
・県内3局のケーブルテレビ局において「ダメ。ゼッタイ」普及運動のテロップ放送を実施した。  
・県内1市の広報紙及び県内新聞2紙に、「ダメ。ゼッタイ」普及運動及び薬物乱用防止に関する記事を掲載した。  
・保健所及び商業施設等において、薬物乱用防止啓発パネル等によるパネル展示、ポスター掲示、リーフレット・ポケットティッシュの配架等を行った。



静岡県

## 愛知県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月25日、7月12日	愛知県内	愛知県	45人	・県、保健所等において、募金箱の設置及び啓発資材の配布を行った。 ・名古屋市中須商店街において、ヤング街頭キャンペーンを行った。ボーイスカウト、ガールスカウト、大学生、愛知県警察と啓発資材(ポケットティッシュ)を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。 ・大相撲名古屋場所において、愛知県警察等と啓発資材の配布や横断幕の設置を行った。 ・プロ野球中日ドラゴンズ試合開催時のバンテリンドームナゴヤ、名古屋競馬場などで、場内放送、電光掲示板等を行い、薬物乱用防止の周知を図った。



愛知県

## 三重県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員
6月20日から7月19日	三重県桑名庁舎、三重県立桑名高等学校、三重県立桑名西高等学校、三重県立桑名北高等学校、三重県立桑名工業高等学校、三重県立いなべ総合学園高等学校、三重県立菟野高等学校、三重県立川越高等学校、津田学園高等学校、桑名医師会立看護専門学校、聖十字看護専門学校、三重県桑名保健所、J R桑名駅前、三重県四日市庁舎、サロン「よつてこ屋」、さろん de 志氏我野、あさけプラザ体育館、四日市市総合会館、小古曾町公民館、鈴鹿市ふれあいホール、MEGAドンキホーテUNY鈴鹿店、J R亀山駅、J R井田川駅、J R下庄駅、J R関駅、J R加太駅、三重県立亀山高等学校、徳風高等学校、マックスバリュ亀山店、マックスバリュみずほ台店、オークワ亀山店、スーパーセンターオークワサウス、亀山エコー、ミスタートオンカチ、亀山市総合保健福祉センターあいあい、近鉄白子駅、三重県津庁舎、近鉄津新町駅、近鉄久居駅、J R松阪駅、近鉄松阪駅前、三重県伊勢庁舎、イオンタウン伊勢ラパーク、イオン阿児店、アピタ伊賀上野店、近鉄名張駅、三重県尾鷲庁舎、イオン熊野店、オークワ熊野店、主婦の店パシフィックマーケット、オークワ阿田和店、パーク七里御浜計52ヶ所	主催 三重県薬物乱用対策推進本部、三重県、四日市市、薬物クリーンみえ推進協議会	620人

### 活動状況

#### ① 6・26ヤング街頭キャンペーン

県内の主要駅、ショッピングセンターなどで薬物乱用防止指導員や薬物乱用防止指導啓発団体を中心に、三重県薬物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ推進協議会を構成する団体等が官民一体となって、街頭キャンペーンを行った。

ポスターの掲示や薬物標本の展示、横断幕やのぼり旗を掲揚するとともに、高校生や県民にリーフレット、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布しながら、薬物乱用防止を訴えた。

他に、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動と併せて、街頭募金を行い、国連支援募金への協力を呼びかけた。

#### ② 地域団体キャンペーン

三重県薬物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ推進協議会を構成する団体等の協力を得て、ポスターの掲示、啓発資材の配布や一声運動の実施を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。

なお、新型コロナウイルス感染症の五類感染症移行に伴い、感染対策を十分に行った上で例年通りの街頭啓発を実施した。県庁舎等においては、ポスターの掲示、啓発資材の配布等により、来庁者への薬物乱用防止を訴えた。



三重県

## 滋賀県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員
6月24日	湖南市(イオンタウン湖南) 高島市(平和堂あどがわ店) 計2箇所	(一社)ガールスカウト滋賀県連盟、日本ボーイスカウト滋賀連盟、湖南市少年センター、高島市少年センター、(社福)湖南市社会福祉協議会、(社福)高島市社会福祉協議会、(社福)滋賀県社会福祉協議会、(一社)滋賀県医師会、(一社)滋賀県歯科医師会、(一社)滋賀県薬剤師会、(一社)滋賀県薬業協会、滋賀県医薬品配置協議会、水口ライオンズクラブ、高島ライオンズクラブ、滋賀県警察本部、滋賀県(業務課・保健所)、他	60人
<b>活動状況</b> ① 6・26ヤング街頭キャンペーン 県内2か所のキャンペーン会場において、キャンペーン実行委員会が中心となり街頭啓発を実施した。当日、会場には「ダメ。ゼッタイ。」君、滋賀県イメージキャラクターのキャットフィーも参加した。各会場で、通行人に啓発資材のリーフレット、ボールペンを配布し、ボーイスカウト、ガールスカウトによる国連支援募金活動も併せて実施した。 ② 地域団体キャンペーン 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動啓発期間には、地域団体キャンペーンとして、病院、診療所、歯科診療所、薬局、薬店、ライオンズクラブ会員の施設等、地域団体の協力を得てポスターの掲示と一声運動を実施し、併せて店頭等に募金箱を設置して国連支援募金活動に協力した。			

## 京都府

月 日	6月24日
開催場所	京都市内4箇所(京都駅、四条河原町、四条高倉、三条河原町)
活動主体	きょうと薬物乱用防止行動府民会議 〔主な参加団体〕 京都府、京都市、京都府警察本部、京都府教育委員会、京都市教育委員会、公益財団法人ガールスカウト日本連盟京都府支部、日本ボーイスカウト京都連盟、ライオンズクラブ国際協会3351C地区、京都府薬物乱用防止指導員協議会
参加人員	233名
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 京都市内繁華街4箇所において、京都府・京都市・京都府警察関係者をはじめ、大学生、薬物乱用防止指導員、ボーイスカウト、ガールスカウト等が薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。



滋賀県

②地域団体キャンペーン  
府内各種関係団体に対し、店頭等でのポスターの掲示や募金箱の設置を依頼し、キャンペーンの周知と国連支援募金への協力呼びかけを行った。  
また、府内各大学・専門学校等に対し、ポスター掲示を依頼し、若年層への薬物乱用防止の呼びかけを行った。  
その他、各地区薬物乱用防止指導員により小中学校の児童等を対象とした薬物乱用防止教室及びリーフレットの配布が行われ、薬物の危険性を伝えると共に本運動の周知がされた。



京都府

## 大阪府

月 日	①7月1日 ②6月20日～7月19日
開催場所	①J.R天王寺駅中央コンコース ②府内各地域 計2か所 ③行政機関、協力団体
活動主体	大阪府、大阪府「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、大阪府薬物乱用防止指導員協議会、関係行政機関、関係民間団体等
参加人員	①6・26ヤング街頭キャンペーン 啓発者約2,000人 関係者17人 ②地域団体キャンペーン 啓発者約1,000人 関係者20人



大阪府



## 活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン  
J.R天王寺駅中央コンコースにおいて、ボランティア(府内大学生等)協力のもと、J.R天王寺駅中央コンコースにおいて啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。  
②地域団体キャンペーン  
関係機関、協力団体・企業等の協力を得て啓発ポスターの掲示やリーフレットの配架等を実施するとともに、国連支援募金箱を設置することで、啓発並びに募金協力呼びかけを行った。また、7月の「少年非行・被害防止強調月間」に合わせて、イベント会場等においてポスター掲示、啓発メッセージ映像の放映、リーフレット・啓発物品の配布を行い、薬物乱用防止を訴えた。  
③その他  
府関係施設(情報プラザ)でのリーフレット配架と府ホームページや、公式Facebook・Twitter、市町村広報誌等を利用した運動の周知並びに啓発を図った。

## 兵庫 兵庫

月 日	6月22日、24日、25日、7月13日
開催場所	神戸市、姫路市、尼崎市、西宮市、明石市、芦屋市、宝塚市、川西市、高砂市、三木市、赤穂市、豊岡市、丹波篠山市、南あわじ市計14か所
活動主体	県、保健所設置市、県薬物乱用防止指導員協議会、各地区薬物乱用防止指導員協議会、兵庫県警察、ライオンズクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウト等
参加人員	487人
活動状況	<p>①6・26ヤング街頭キャンペーン          県下12地区の薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、ボーイスカウト・ガールスカウト等のヤングボランティアや、ライオンズクラブ、警察署等の関係機関の協力を得て、県下14か所において街頭キャンペーンを実施した。</p> <p>街頭キャンペーン実施に際しては、買い物客が集まる「神戸元町商店街」や利用者の多い「姫路駅」等の主要駅、地域の利用の多い大型スーパー等、地域の実情に応じて、人が多く集まる場所を選定した。</p> <p>キャンペーンでは、横断幕・のぼりの掲出、兵庫県マスコット「はばたん」、兵庫県薬物乱用防止対策推進会議マスコット「まやたん」の着ぐるみの登場等により、啓発効果を高めた。</p> <p>活動参加者は、啓発用のビブスや帽子、Tシャツ、タスキ等を着用し、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」を合言葉に、通行人等に対してリーフレット、ボールペン、ポケットティッシュ等のオリジナルの啓発資材を配布し、薬物乱用の害や危険性を訴えるとともに、国連支援募金活動を行った。</p> <p>②地域団体キャンペーン          運動期間にあわせて、県庁舎や市役所等で運動ポスターの掲示等を行った他、SNS(Twitter等)やケーブルテレビ等による啓発活動を展開した。</p> <p>また、高校文化祭でのパネル展示や、小学校での薬物乱用防止教室の実施等を行い、若年層に対しての啓発を行った。</p>

## 奈良 奈良



兵庫 兵庫

月 日	6月20日から7月19日
開催場所	イオンスタイル奈良店、イオン桜井店、イオン五條店、イオンいかるが店、イオンスタイル大和郡山店、イオンモール大和郡山、イオンモール橿原、イオンモール奈良登美ヶ丘、ザ・ビッグエクストラ大安寺店、ザ・ビッグエクストラ平群店、ザ・ビッグエクストラ天理店、ザ・ビッグエクストラ香芝店、KOHYO東生駒店、KOHYO JR奈良店、ダイエー富雄南店
活動主体	奈良県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、奈良県薬物乱用対策推進本部、奈良県警察本部、奈良県教育委員会、ライオンズクラブ国際協会3351C地区8R1Z・8R2Z・8R3Z、奈良県製薬協同組合、奈良県家庭薬配置商業協同組合、(一社)奈良県薬剤師会、(一社)奈良県医薬品登録販売者協会、奈良県毒物劇物取扱者協会、奈良県家庭薬卸協同組合、奈良県医薬品卸協同組合、奈良県医薬品配置協議会、奈良県歯科用品商組合、奈良県薬事団体連合会

## 和歌山 和歌山

**活動状況**  
 ①6・26ヤング街頭キャンペーン  
 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、代替の活動として、関係団体やショッピングモール等に、啓発ポスターの掲示や募金箱の設置を依頼し、啓発を行うと共に国連支援募金への協力を呼びかけた。

月 日	6月24日、25日、7月3日 ほか
開催場所	和歌山市、岩出市、紀の川市、九度山町、海南市、有田市、有田川町、御坊市、由良町、田辺市、串本町、古座川町、新宮市、那智勝浦町、太地町の計30カ所
活動主体	和歌山県、和歌山県薬物乱用防止指導員協議会、和歌山県薬物乱用対策推進本部
参加人員	延べ455人
活動状況	<p>①6・26ヤング街頭キャンペーン          県内各地域の薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、和歌山県警察、和歌山海上保安部、大阪税関和歌山税関支署、各市町村少年センター、県内ライオンズクラブなどの関係機関・団体の協力を得て、駅前やショッピングセンター前などで、のぼりを掲げ、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」を合言葉に、リーフレット、キズバンド、ティッシュなどの啓発物品を配布した。</p> <p>②地域団体キャンペーン          関係団体等の協力により、啓発ポスターを店頭に掲示するとともに、医薬品関係業者、生活衛生関係業者の店舗や職場において、国連支援募金活動を実施した。</p>



## 鳥取県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
7月8日	イオン鳥取北店(鳥取市) パープルタウン(倉吉市) (米子市は、悪天候のため中止とした。) 計2箇所	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動鳥取県実行委員会、鳥取県、鳥取県警、鳥取県薬物乱用防止指導員協議会、ヤングボランティア	(鳥取市)20人 (倉吉市)20人 合計40人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 鳥取県薬物乱用防止指導員地区協議会の会員、高校生、ヤングボランティア等が中心となって、県内2地区で、ヤング街頭キャンペーンを実施し、地区住民に対し、国連支援募金活動及び啓発活動を実施した。 また、街頭キャンペーン実施前に高校生ボランティアへ薬物乱用防止についての研修を行うなど、若者に対する啓発にも力を入れた。 ②地域団体キャンペーン 各団体はもとより、各市町村及び県庁並びに県地方機関等にもポスター、募金箱等を送付し啓発に努めた。また、国連支援募金への協力依頼を実施した。 その他「子ども向け薬物乱用防止リーフレット」を作成し、県内の関係機関や学校へ配布した。



和歌山県

## 鳥根県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月25日	松江市、出雲市、雲南市、大田市、浜田市、益田市、隠岐郡隠岐の島町 計7ヶ所	鳥根県、カブスカウト・ボーイスカウト・ガールスカウト・中学生・高校生等のヤングボランティア、ライオンズクラブ、薬物乱用防止指導員等	239人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内7ヶ所で、カブスカウト・ボーイスカウト・ガールスカウト・中学生・高校生等のヤングボランティアのほか、ライオンズクラブ及び薬物乱用防止指導員、各関係機関の協力を得て街頭キャンペーンを実施した。各参加者は、ショッピングセンターの入口等で「ダメ。ゼッタイ。国際協力で薬物乱用をなくしましょう。」を合言葉に啓発資材を配布するとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。 ②地域団体キャンペーン 市町村、警察署、医療機関、薬局等の協力によりポスターの掲示やリーフレット等啓発資材の配布を行ったほか、各機関の窓口へ募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。



鳥取県

## 岡山県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員
6月15日、21日、22日、27日、30日、7月1日	「覚醒剤等薬物乱用防止指導員各地区協議会(県下9地区)管内 (岡山市、備前市、和気町、倉敷市、総社市、浅口市、笠岡市、津山市、勝央町、美作市、真庭市、高梁市、新見市) 県、県警察本部、保健所、県覚醒剤等薬物乱用対策推進本部、県覚醒剤等薬物乱用防止指導員協議会(医師会、薬剤師会、保護司会連合会、少年警察協会員連合会、愛育員会、理容生活衛生同業組合、食品衛生協会、ライオンズクラブ3361B地区)、同各地区協議会、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、同各支部(後援等) 県内の各税関支署、各海上保安部、各警察署、社会を明るくする運動等	642人	



鳥根県

## 活動状況

### ① 6・26ヤング街頭キャンペーン

・「覚醒剤等薬物乱用防止指導員各地区協議会(県下9地区)」が中心となり、「JR駅前、高等学校等県下17箇所において「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に薬物乱用啓発資材(パンフレット、ウエットティッシュ、ボールペン、ノート等)を配布するとともに、覚醒剤等薬物乱用防止を呼びかけ、併せて国連支援募金を実施した。また、高校生ボランティアの積極的な協力があった。

### 〔参加学校〕

関西高等学校、山陽学園高等学校、備前緑陽高等学校、和気閑谷高等学校、就実高等学校、倉敷翠松高等学校、総社南高等学校、笠岡高等学校、笠岡工業高等学校、おかやま山陽高等学校、津山工業高等学校、津山商業高等学校、勝間田高等学校、林野高等学校、勝山高等学校、高梁城南高等学校、方谷學舎高等学校、新見高等学校北校地、新見高等学校南校地、共生高等学校・日本プロサッカーチームであるフアジアーノ岡山のホーム公式戦において、「岡山県民応援デー」で、違法薬物撃退のあてやパネル展示の実施や普及啓発資材を配布した。

### ② 地域団体キャンペーン

関係機関の窓口等へ募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。



岡山県

## 広島県

月 日	6月24日、25日、7月2日、8日、15日、16日、22日
開催場所	県内7か所(広島市、坂町、安芸太田町、東広島市、尾道市、福山市、三次市) ※2か所(廿日市市、呉市)は大雨警報のため中止となった。
活動主体	広島県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会
参加人員	494人
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 薬物乱用防止の啓発物品を配布するとともに、募金活動を行った。 地元高校器楽部による演奏、各団体・地域のキャラクターの出演など、各地区で啓発・募金活動を盛り上げた。 また、大学生の「広島県ヤング薬物乱用防止指導員」にも参加してもらい、より幅広い世代へ薬物乱用防止を呼び掛けた。 ② 地域団体キャンペーン 計47の関係団体が店頭等へのポスターの掲示及び一声運動を実施した。



広島県

## 山口県

月 日	6月19日～30日、7月15日、29日、8月5日
開催場所	山口市、防府市、下松市、長門市、萩市
活動主体	山口県薬物乱用防止推進員地区協議会、山口県健康福祉部薬務課
参加人員	60人
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 県内各地の商業施設等において、ヤングボランティア及び山口県薬物乱用防止推進員地区協議会の会員等が中心となって、薬物乱用防止の呼びかけ、のぼりの設置、啓発資材の配布及び国連支援募金への協力を呼びかけた。 ② 地域団体キャンペーン 県庁パネル展示コーナーにおいて、薬物乱用防止啓発に係るポスターの入選作品を展示し、デジタルサイネージによる「ダメ。ゼッタイ。」普及運動メッセージ動画を放映するとともに、啓発資材を配布した。 各市町、各種関係機関・団体等の協力を得て、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動のポスターの掲示を行うとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。



山口県

## 徳島県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月20、22、24、26日、7月9日	徳島市、阿南市、海部郡、吉野川市、美馬市、三好市 計6地区8箇所	県、県薬物乱用防止協議会、県下6地区協議会、ヤングボランティア、高校生等	262人	<p>①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内6地区の薬物乱用防止地区協議会を活動主体として、薬物乱用防止指導員のほか、高校生をはじめとしたヤングボランティア、各警察署、ライオンズクラブ等の関係機関・関係団体の協力を得て、ヤング街頭キャンペーンを実施した。</p> <p>量販店等の人が集まる場所をキャンペーン会場として、薬物乱用防止を訴える横断幕、のぼり等を掲げ、「薬物乱用はダメ。ゼツタイ。国際協力で薬物乱用をなくしましょう。」を合言葉に、来場者等に対して啓発用パンフレット、ポケットティッシュ、うちわ等の啓発資材を配布し、薬物乱用防止を訴えた。</p> <p>②地域団体キャンペーン 薬物乱用防止地区協議会及び薬物乱用防止指導員を活動主体として、県内市町村役場、各事業所、店舗等の協力を得て、ポスター等を掲示した。</p>



徳島県

## 香川県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月18日、6月26日、6月28日、7月3日、7月7日	高松丸亀町老番街前ドーム、南三町ドーム、JR坂出駅前、JR観音寺駅、JR高瀬駅、こどもさくら公園 計5箇所	香川県、各保健所薬物乱用防止対策連絡協議会、香川県麻薬・覚醒剤・シンナー禍対策推進員、市町、警察署、保護観察所、税関支署、海上保安署、ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト、少年育成センター、更生保護女性会、保護司会、薬剤師会、小学生、中学生、高校生、教員等	約3460人	<p>県下4カ所の薬物乱用防止対策連絡協議会が中心となって、市町、警察署、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、その他医療・衛生関係機関等の協力を得て、県内の各施設において募金箱の設置やポスターの掲示を行った。</p> <p>街頭での啓発活動としては、駅前や公園等で、チラシやポケットティッシュ、リーフレット等の啓発資材を配布したり、商店街でパレードを行いながら資材の配布を行ったりすることで、薬物乱用の恐ろしさを訴えた。</p> <p>小豆地区では、地元の高校生が樽太鼓を演奏し、薬物乱用の防止を啓発した。</p> <p>西讃地区においては、公用車に薬物乱用防止のステッカーを貼り、街中を移動しながらの啓発活動も行った。</p>



## 愛媛県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月14日～7月23日	四国中央市、新居浜市、今治市、松山市、八幡浜市、宇和島市	愛媛県、愛媛県薬物乱用防止指導員協議会（愛媛県保護司会連合会）、ライオンズクラブ、愛媛県薬剤師会、愛媛県農業協会、愛媛県少年警察ボランティア協会、愛媛県配置業協会、愛媛県ジェネリック出版社協会、愛媛県登録販売者協会	178名（主催者側）	<p>今年度は、一部の地域において、高校生等が参加する街頭パレードを開催したほか、商業施設等で街頭キャンペーン、関係施設において県薬物乱用防止啓発用ポスターコンクール受賞作品や啓発用パネルの展示会を実施した。街頭パレード・キャンペーン、展示会では、リーフレットやポケットティッシュ等の啓発資材を配布して、薬物乱用防止を広く県民に呼びかけた。</p>



香川県

## 高知県

月 日	6月17日、6月24日
開催場所	高知市・香美市・宿毛市(計3市)
活動主体	高知県、高知県薬物乱用防止推進連合協議会、東部・中央東・高知市・中央西・高陵・幡多の各地区薬物乱用防止推進協議会、ヤングボランティア(ポリースカウト、小学生、中学生、高校生)、民生委員、保護司、ライオンズクラブ国際協会3361A地区、関係行政機関職員
参加人員	355人(うち、ヤングボランティア135人)
活動状況	県下6地区の薬物乱用防止推進協議会が中心となり、ヤングボランティア等の協力を得て、パレード等の街頭キャンペーンを実施。リーフレットや薬物乱用防止標語入ポケットティッシュなどの啓発資材の配布を行っているが、広く県民へ薬物乱用防止を訴えると共に、国連支援募金への協力について呼びかけを行った。



愛媛県

高知市地区においては、市内商店街アーケードにて、土佐女子中学高等学校吹奏楽部の演奏を先頭に高知県警察マスコットの「ポリンくん」と「ポリーちゃん」の着ぐるみ等も率いて啓発パレードを行った。パレード後は、ポリースカウト、高校生等のヤングボランティアを中心に、若者から若者への啓発資材の配布等啓発活動を行うと共に募金活動への協力を呼びかけた。他の地区においても、吹奏楽部(中学生)による演奏を交えながら、量販店等で街頭キャンペーン及び募金活動を実施し、薬物乱用防止について広く県民に呼びかけた。

今後も地域の夏祭りやイベント等の日程に合わせて、地域や他団体とも連携し、薬物乱用防止の啓発を行う予定。



高知県

## 福岡県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	福岡県内一円 久留米市、その他保健福祉(環境)事務所(筑紫、糸島、粕屋、宗像・遠賀、嘉穂・鞍手、田川、北筑後、南筑後、京築) 計11箇所

### 活動主体

県、県薬物乱用対策推進本部、ライオンズクラブ国際協会3371A地区、福岡県薬協会(公社)福岡県医師会(公社)福岡県歯科医師会(公社)福岡県薬剤師会(一社)福岡県医薬品登録販売者協会、福岡県医薬品卸業協会(公社)福岡県医薬品配置協会(公社)福岡県製薬工業協会、福岡県医療機器協会、福岡県保護司会連合会、福岡県更生保護女性連盟、福岡県BBS連盟、日本ポリースカウト福岡県連盟、(一社)ガールスカウト福岡県連盟

### 参加人員

434人

### 活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン  
大雨で中止になった3箇所を除き、実施した県下延べ11箇所において、各協力団体・関係機関のボランティアの参加を得て、のぼり・横断幕を掲げ、啓発資材の配布を実施した。

また、当該期間中、大麻乱用防止啓発動画のYouTubeや県庁ロビーのデジタルサイネージによる広告、県庁庁舎やアビスパ福岡のホームスタジアムへの横断幕掲示、LINEやTwitter広告、ラジオ番組による「ダメ。ゼッタイ」普及運動の告知を行い、県民に広く周知した。

②地域団体キャンペーン  
「ダメ。ゼッタイ」普及運動期間中、各市町村、関係団体等に対しては、啓発用ポスターの掲示や国連支援募金箱の設置等の協力を依頼した。



福岡県

## 佐賀県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
7月4日、5日、11日、15日	佐賀市、唐津市、鳥栖市、伊万里市、武雄市、鹿島市 計6箇所	佐賀県、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、薬剤師会、保護司会連合会、少年補導員連絡協議会、地域婦人連絡協議会、高等学校、ライオンズクラブ、BBS連盟、ボーイスカウト、ガールスカウト、警察署等	459人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 商業施設や駅周辺等において、高校生やボーイスカウト、ガールスカウト等のヤング、及び関係機関、協力団体の参加を得て、リーフレット、標語入ポケットティッシュなどの啓発資材を配布し、一声運動により通行人等に薬物乱用防止を訴えとともに、国連支援募金を実施した。 ②地域団体キャンペーン 各協力団体、市町、県警本部、県庁各機関等において、ポスターの掲示による啓発や募金箱の設置により国連支援募金活動を実施した。



佐賀県

## 長崎県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月24日、25日、7月1日、2日、3日、6日、8日、16日、24日	長崎市、佐世保市、松浦市、新上五島町、壱岐市、島原市、大村市、五島市、時津町、対馬市 合計7市2町10か所	長崎県、長崎県薬物乱用防止指導員協議会、長崎県警察本部、長崎県薬剤師会、長崎県保護司会連合会、長崎県防犯協会連合会、ライオンズクラブ国際協会337-C地区、長崎県医薬品配置協会、長崎税関、各市町等	10,025名	①6・26「ダメ。ゼッタイ。」ヤング街頭キャンペーン 県、薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、関係機関・民間団体等の協力を得て、県下10か所において実施した。 人が多く集まるアーケード・大型店舗等を会場として、薬物乱用はダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、通行人、買物客等に対し、啓発資材(リーフレット・ポケットティッシュ等)を配布するとともに国連支援募金への協力を行い、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。 ②地域団体キャンペーン 各団体の協力を得て関係施設に啓発用ポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し募金活動に協力した。また、県庁舎に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動横断幕を掲示し、啓発活動を行った。 その他の団体等のイベント開催に併せ、啓発資材の配布などを行った。 ●青少年への啓発活動 6月2日に開催された県高校総体開会式会場において、「ダメ。ゼッタイ。」の横断幕の掲示を行い来場者に対する啓発を行った。 全国高校野球選手権長崎大会(甲子園予選)において、長崎市の県営ビッグスタジアム及び佐世保市総合グラウンド野球場にて「ダメ。ゼッタイ。」普及横断幕を設置し、来場者に対し啓発を行った。 また、JR駅、県内自動車学校等若者が多く集まる場所でのポスターを掲示し、チラシ等の配布を行った。



長崎県

## 熊本県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員
6月20日～7月19日	県内一円	熊本県、熊本県薬物乱用対策推進本部、熊本県薬物乱用防止指導員連合協議会、ライオンズクラブ国際協会337-E地区、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動熊本県実行委員会、各市町村、熊本県教育委員会(公社)熊本県医師会(一社)熊本県歯科医師会(公社)熊本県薬剤師会(一社)熊本県医薬品登録販売者協会(一社)熊本県医薬品配置協会、熊本県製薬協会、熊本県医薬品卸業協会、熊本県歯科用品商組合、日本薬局協会熊本県支部、阿蘇製薬(株)、(株)再春館製薬所、リバテープ製薬(株)、KMバイオロジクス(株)、(一財)化学及血清療法研究所、熊本県保護司会連合会、熊本県防犯協会連合会、熊本県少年警察ボランティア連絡協議会、熊本県社会教育委員連絡協議会、熊本県地域婦人会連絡協議会、熊本県更生保護女性連盟等	459人

**活動状況**

① 6・26ヤング街頭キャンペーン

熊本市及び県下保健所管内の地区薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、大型商業施設等において、小・中・高校、ボーイスカウト及びガールスカウト等のヤングボランティア、薬物乱用防止指導員、県職員、税関職員、県警職員、教育委員会及び市町村職員が、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を合い言葉に街頭キャンペーンを実施し、啓発パンフレット、啓発資材等の啓発資材を配布するとともに国連支援募金への協力を呼びかけた。

② 地域団体等キャンペーン

県内各保健所、薬局・医薬品販売業者、病院、自衛隊駐屯地等の各種団体・機関において、ポスターの掲示による啓発及び国連支援募金への協力依頼を行った。



熊本県



**大分県**

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	大分県内

**活動主体**

大分県、大分県警察本部及び大分県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、大分市保健所、日本ボーイスカウト大分県連盟、ガールスカウト大分県連盟、ライオンズクラブ国際協会3371B地区、大分県保護司会連合会、大分県薬剤師会、大分県少年警察ボランティア協会、大分県防犯協会、大分県公民館連合会、大分県医薬品登録販売者協会、大分県暴力追放運動推進センター

**参加人員**

計527人

**活動状況**

① 6・26ヤング街頭キャンペーン

本キャンペーンは県薬務室、各保健所等が県内8地域で、薬物乱用防止指導員、高校生、ボーイスカウト、ガールスカウト等のボランティア団体の協力を得て、盛大に行われた。

参加者は、「ダメ。ゼッタイ。」たすきを着用し、ポルペン、絆創膏、パンフレット等啓発資材を通行人に配布し、街頭啓発を行うとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。

特に、大分・由布地区では、大分県警察本部と共催で実施し、若者に対する啓発を盛り上げるため、6月20日(火)の早朝と7月1日(土)の午前の2回啓発を行った。会場となった大分駅前広場では、横断幕のほり、薬物標本等による啓発も実施し、道行く人たちに「薬物乱用防止」をアピールした。

② 地域団体キャンペーン

大分県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員や地域の団体、企業、店舗等の協力を得て、「ダメ。ゼッタイ。」ポスターの掲示と同募金箱を設置した。また、交通量の多い大分市内2箇所、別府市内1箇所、佐伯市内1箇所の歩道橋に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動横断幕を掲示し、啓発活動を行った。

③ 啓発メッセージ動画の放映等について

麻薬覚せい剤乱用防止センター作成メッセージ動画を普及運動実施期間中に県庁及び大分県信用組合各支店のデジタルサイネージ、大分県薬務室HPにて放映した。また、7月9日(日)の大分トリニータホームゲームにおいて、レゾナックタドーム大分の大型ビジョンにて放映した。



大分県



## 宮崎県

月 日	6月24日
開催場所	宮崎市
活動主体	宮崎県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 宮崎県薬物乱用防止指導員協議会 宮崎レオクラブ、宮崎フェニックスレオクラブ、ガールスカウト、宮崎市、宮崎県警、宮崎県
参加人員	約150人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県庁前にて出発式を行い、高校生3名が厚生労働大臣メッセージを代読した。 続いて、参加者全員が啓発用タスキを着用し、横断幕とのぼり旗を持ち「薬物乱用は、ダメ。ゼッタイ。」と呼びかけながら、県庁前から繁華街デパート前までの約1kmをパレードした。 その後、繁華街デパート前を中心にパンフレットの啓発資料の配布と国連支援募金活動を実施した。 ②地域団体キャンペーン 関連団体等による国連支援募金活動の実施



宮崎県

## 鹿児島県

月 日	6月24日
開催場所	鹿児島市
活動主体	県、薬物乱用防止指導員鹿児島地区協議会 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動鹿児島実行委員会
参加人員	約130人
活動状況	①街頭キャンペーン 新型コロナウイルス感染症の影響で過去3年間は規模を縮小して実施していたが、今回、感染症法上の位置づけが「5類」に移行したことを受け、4年ぶりに通常規模で6・26ヤング街頭キャンペーンを実施した。 当日は、小・中・高・大学生を中心に関係機関・団体の協力を得て、繁華街において、啓発用リーフレット等を配布し、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、国連支援募金活動を実施した。 ②地域団体キャンペーン 後援団体等の協力を得て、募金箱の設置やポスターの掲示を行うとともに、地域で開催される各種集会・研修会等において啓発活動を展開した。



鹿児島県

## 沖縄県

月 日	6月24日 6月26日(宮古地区のみ)
開催場所	那覇市、名護市、北谷町、糸満市、宮古島市、石垣市 計6箇所
活動主体	県、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、薬物乱用防止協会支部、中学生、高校生、ガールスカウト、ボーイスカウト、その他関係機関・団体
参加人員	361人
活動状況	・6・26ヤング街頭キャンペーン 県内6ヶ所において、ヤングボランティア及び薬物乱用防止指導員等を中心にパンフレット等啓発資料を通行人に配布する街頭キャンペーンを実施するとともに、国連支援街頭募金を実施した。 期間中、街頭キャンペーン以外に次のことを実施した。 ①地域団体キャンペーン ②国連支援募金 ③市町村への協力呼びかけ(国連支援募金及びポスター等の掲示) ④県内各関係機関への普及・啓発依頼



沖縄県

# 「第六次薬物乱用防止五カ年戦略(概要)」について

令和5年8月8日、関係閣僚で構成される薬物乱用対策推進会議で「第六次薬物乱用防止五カ年戦略」が策定されました。平成30年8月に決定した「第五次薬物乱用防止五カ年戦略」から強化・新設した「第六次薬物乱用防止五カ年戦略」の主な重要項目は以下のとおりです。

## 【戦略策定上の重要項目】

### ①大麻乱用期への総合的な対策の強化

- ・デジタルツール等を用いた効果的な啓発活動の強化
- ・大麻乱用者に特化した再乱用防止の取組の強化
- ・大麻事犯に対する取締りの徹底による大麻乱用期の早期沈静化

### ②再乱用防止対策における関係機関と連携した“息の長い支援”強化

- ・薬物依存症患者としての回復支援強化
- ・薬物依存症の治療等を含めた再乱用防止と社会復帰支援策の充実

### ③サイバー空間を利用した薬物密売の取締りの強化

- ・秘匿性の高いメッセージアプリや暗号資産を用い巧妙化する犯罪手口への対応強化
- ・「闇バイト」を利用した薬物犯罪への取締り強化

### ④国際的な人の往来増加への対応強化

- ・水際における薬物取締体制の拡充
- ・訪日外国人、海外渡航者への注意喚起の推進

### ⑤薬物乱用政策についての国際社会との連携・協力強化と積極的な発信

- ・仕出国、中継国となっている国・地域の捜査機関との国際的な連携強化
- ・予防政策を含む、世界的に誇る我が国の薬物政策の理解獲得の強化

## 第六次薬物乱用防止五カ年戦略（概要）

令和5年8月 薬物乱用対策推進会議決定

### 戦略策定に向けた5つの視点

- ・大麻乱用期への総合的な対策の強化
- ・再乱用防止対策における関係機関の連携した“息の長い支援”強化
- ・サイバー空間を利用した薬物密売の取締り強化
- ・国際的な人の往来増加への対応強化
- ・薬物乱用政策についての国際社会との連携・協力強化と積極的な発信

### 5つの目標

#### 目標1 青少年を中心とした広報・啓発を通じた国民全体の規範意識の向上による薬物乱用未然防止

- ＜大麻の有害性・危険性・国内外の規制状況について周知＞
- 薬物乱用防止教室の充実強化
  - 研修等を通じた指導方法・指導者の資質向上

- ＜国際的な人の往来増加への対応としての啓発強化＞
- 海外渡航者に向けた、ウェブサイトを利用した周知の実施
  - 諸外国における最新の薬物規制状況等の啓発資料への反映

- ＜デジタルツール等を効果的に活用した広報・啓発手法の強化＞
- 青少年の目に触れやすい広報媒体の活用
  - 科学的知見に基づく情報の広報・啓発資料への反映による内容の充実

#### 目標2 薬物乱用者に対する適切な治療と効果的な社会復帰支援による再乱用防止

- ＜関係機関がより一層連携した「息の長い支援」の実施＞
- 刑事司法関係機関等による社会復帰支援の推進
  - 大麻事犯の特性に対応した指導・支援の推進

- ＜治療等を提供する医療機関等の充実・強化＞
- 認知行動療法等の治療や回復プログラムの更なる充実
  - 治療が可能な医療従事者育成のための研修の充実

- ＜大麻事犯者の再犯防止等に向けた効果的な対応の検討＞
- 薬物依存症等に関する正しい知識・意識の理解の促進
  - 支援方針の研究及び支援による効果検証の推進

#### 目標3 国内外の薬物密売組織の壊滅、大麻をはじめとする薬物の乱用者に対する取締りの徹底及び多様化する乱用薬物等に対する迅速な対応による薬物の流通阻止

- ＜薬物密売組織の弱体化・壊滅の推進＞
- 薬物専門の捜査・情報分析・鑑定等体制強化
  - 合同捜査・共同摘発の推進

- ＜巧妙化する犯罪手口への対応強化と徹底した取締り＞
- サイバー空間を利用した薬物密売事犯への対応強化
  - 大麻乱用期の早期沈静化に向けた徹底した取締り

- ＜新たに出現する未規制物質に対する速やかな規制＞
- 未規制物質や大麻濃縮物等の新たな規制薬物への対応
  - 未規制物質等の迅速な指定の推進

#### 目標4 水際対策の徹底による薬物の密輸入阻止

- ＜密輸手口の分析と情報共有等を通じた水際取締り体制の強化＞
- 関係機関や事件等を通じた情報収集の推進
  - 合同取締訓練実施による取締り体制の連携・能力向上

- ＜大麻、大麻製品等の密輸事犯の対応強化＞
- コントロールド・デリバリー捜査の積極的な活用
  - 関係機関による捜査手法の共有及び連携強化

- ＜国際的な人の往来増加への対応としての水際対策＞
- ウェブサイト等を活用した規制薬物情報の広報・啓発強化
  - 国際会議・在外機関等を通じた広報・啓発の実施

#### 目標5 国際社会の一員としての国際連携・協力を通じた薬物乱用防止

- ＜各国・地域間の違法薬物密輸・取引情報等の収集及び体制の強化＞
- 薬物乱用対策に係る情報集約体制の強化
  - 国際機関等との情報共有体制の強化

- ＜我が国の薬物乱用政策の積極的な発信＞
- 国際的な理解獲得のための積極的な発信
  - 国連麻薬委員会等への参加を通じた諸外国との連携

- ＜海外関係機関への技術支援等を通じた連携強化＞
- 薬物仕出国等に対する技術支援等を通じた連携強化
  - 薬物仕出国等への職員派遣を通じた国際的な連携強化

※項目は主なものを記載

(厚生労働省公表資料)

# 薬物事犯データ

## ■「令和4年における組織犯罪の情勢 第2章：薬物情勢」(2023年4月警察庁公表資料)

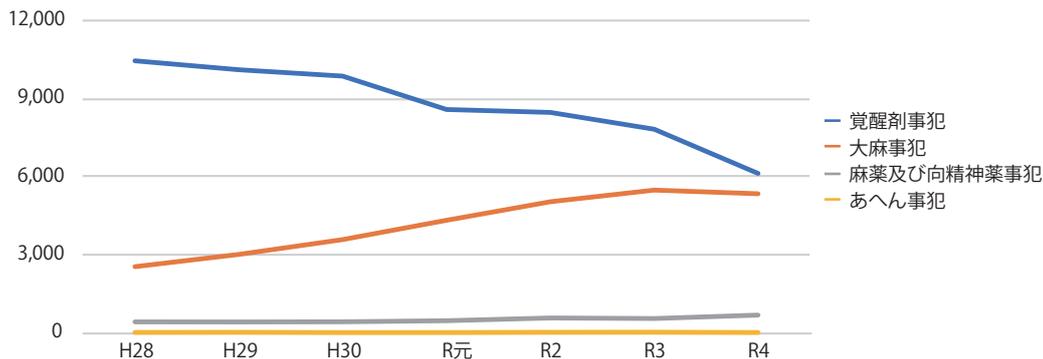
### ■検挙人員

薬物事犯の検挙人員は、近年横ばいが続く中、12,142人と前年より減少した。このうち、覚醒剤事犯は6,124人と前年より大幅に減少し、ピークであった平成9年の19,722人から長期的に減少傾向にある。大麻事犯は平成26年以降増加が続いていたが、5,342人と過去最多であった前年を下回った。

### ●薬物事犯別検挙人員の推移

	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
覚醒剤事犯	10,457	10,113	9,868	8,584	8,471	7,824	6,124
大麻事犯	2,536	3,008	3,578	4,321	5,034	5,482	5,342
麻薬及び向精神薬事犯	412	409	415	457	562	541	673
あへん事犯	6	12	1	2	12	15	3
<b>検挙人員合計</b>	<b>13,411</b>	<b>13,542</b>	<b>13,862</b>	<b>13,364</b>	<b>14,079</b>	<b>13,862</b>	<b>12,142</b>

図 薬物事犯別検挙人員の推移



### ●年齢別大麻事犯年齢別検挙人員の推移

	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
50歳以上	113	152	157	192	133	174	184
構成比率(%)	4.5	5.1	4.4	4.4	2.6	3.2	3.4
40～49歳	326	347	370	502	459	507	462
構成比率(%)	12.9	11.5	10.3	11.6	9.1	9.2	8.6
30～39歳	899	1,038	1,101	1,068	1,015	984	931
構成比率(%)	35.4	34.5	30.8	24.7	20.2	17.9	17.4
20～29歳	988	1,174	1,521	1,950	2,540	2,823	2,853
構成比率(%)	39.0	39.0	42.5	45.1	50.5	51.5	53.4
20歳未満	210	297	429	609	887	994	912
構成比率(%)	8.3	9.9	12	14.1	17.6	18.1	17.1
うち中学生	2	2	7	6	8	8	11
うち高校生	32	53	74	109	159	186	150
(再掲)大学生	40	55	100	132	219	232	160
<b>検挙人員合計</b>	<b>2,536</b>	<b>3,008</b>	<b>3,578</b>	<b>4,321</b>	<b>5,034</b>	<b>5,482</b>	<b>5,342</b>

●大麻事犯20歳未満の検挙人員推移

	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
検挙人員	210	297	429	609	887	994	912
年齢別内訳							
19歳	102	129	185	294	430	463	441
18歳	64	84	128	164	238	288	225
17歳	32	49	68	97	136	158	148
16歳	9	28	26	42	65	64	71
15歳	2	6	18	11	15	17	22
14歳	1	1	4	1	3	4	5

●大麻栽培事犯の検挙状況推移

	H30	R元	R2	R3	R4
検挙件数	175	172	257	244	217
検挙人員	152	164	232	230	225
暴力団構成員等	25	42	46	48	41

■営利目的事犯の増加・暴力団や外国人の関与

営利目的の検挙者は外国人による事犯が増加した。相変わらず営利犯での覚醒剤検挙人員の4割以上が暴力団構成員だった。

●薬物事犯別営利犯検挙人員の推移

	H29	H30	R元	R2	R3	R4
覚醒剤事犯	586	535	682	490	455	450
暴力団構成員等	303	295	276	278	246	191
構成比率(%)	51.7	55.1	40.5	56.7	54.1	42.4
外国人	152	126	272	86	66	97
構成比率(%)	25.9	23.6	39.9	17.6	14.5	21.6
大麻事犯	193	212	305	342	426	436
暴力団構成員等	87	79	99	83	104	105
構成比率(%)	45.1	37.3	32.5	24.3	24.4	24.1
外国人	35	12	31	28	50	40
構成比率(%)	18.1	5.7	10.2	8.2	11.7	9.2
麻薬及び向精神薬事犯	24	27	54	68	93	142
あへん事犯					1	0
合計	803	774	1,041	900	975	1,028

## ■押収量

押収量については、覚醒剤289kg、乾燥大麻289.6kgといずれも前年より大きく減少した一方、大麻濃縮物が74kgと大幅に増加した。

## ●薬物種類別押収量推移

		H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
覚醒剤	(kg)	1,495.4	1,118.1	1,138.6	2,293.1	437.2	688.8	289.0
	(錠)	138	5	261	64	5	2,952	1,533
乾燥大麻	(kg)	133.1	176.3	280.4	350.2	265.1	329.7	289.6
大麻樹脂	(kg)	0.9	20.7	2.9	12.8	3.4	2.1	5.6
大麻草	(本)	13,660	17,324	4,456	8,074	9,893	7,301	7,563
	(kg)	42.3	67.5	23	33.2	37.9	17.8	11.2
大麻濃縮物	(kg)						22.2	74.0
合成麻薬	(錠)	5,021	3,181	12,303	73,935	90,322	54,204	74,824
MDMA	(錠)	5,019	3,109	12,274	73,874	90,218	54,192	74,717
コカイン	(kg)	18.3	9.6	42	34.9	23.4	10	41.8
ヘロイン	(kg)	0	70.3	0	0	14.8	0	0
あへん	(kg)	0.7	0	0	0	0	4.3	0

## ●覚醒剤事犯の再犯者率推移

	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
検挙人員	10,457	10,113	9,868	8,584	8,471	7,824	6,124
再犯者数	6,804	6,647	6,521	5,687	5,880	5,272	4,188
再犯者率(%)	65.1	65.7	66.1	66.3	69.4	67.4	68.4

## ●大麻事犯初犯率推移

	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
検挙人員	2,536	3,008	3,578	4,321	5,034	5,482	5,342
初犯者数	1,962	2,294	2,741	3,355	3,974	4,282	4,054
初犯者率(%)	77.4	76.3	76.6	77.6	78.9	78.1	75.9

## ☆対策

大麻事犯について、若年層による乱用防止を目的として、ネット上での違法情報・有害情報の排除や広報啓発活動を推進する。

# A high-level side event to commemorate the 30th anniversary of the DAPC Grants

A drug prevention appeal from Japan after 30 years



## 【第66回国連麻薬委員会 サイド・イベントの報告】

＜令和5年3月14日＞

1993年より公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター（DAPC）が中心となり、日本国内で『「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金』として官民一体で行われてきた募金活動。

集まった募金は国際連合薬物・犯罪事務所（UNODC）を通じて、これまでに開発途上国延べ649カ国、780の薬物乱用防止プロジェクトに役立てられてきました。

この30年間の軌跡を振り返り、次世代を担う若者に向けて、薬物乱用防止活動の重要性とその活動は、乱用の防止だけでなく乱用に陥った者の早期発見、治療、教育、アフターケア、更生及び社会復帰までの措置が一体であることを伝え、さらに麻薬委員会に出席する各国代表者や民間団体に日本の取り組みを紹介しながら、薬物乱用防止活動が不可欠であることを再確認し、共に手を携えて世界から薬物乱用をなくすために、さらなる手立て（方法と手段）を探ることを目的として、国連麻薬委員会第66回会期中に30周年記念サイド・イベントを開催しました。



## 令和5年3月14日、ウィーン国際センター カンファレンスルームM3

“Dame. Zettai.” (Never. Ever.) “Value yourself.” A high-level side event to commemorate the 30th anniversary of the DAPC Grants

（「ダメ。ゼッタイ。」～愛する自分を大切に～ 国連支援募金30周年を記念するハイレベルサイド・イベント）



## プログラム1：総理メッセージ・UNODCワーカー事務局長メッセージ

### 岸田総理大臣：ビデオメッセージ

「薬物乱用を未然に防止する活動や、不幸にして乱用に陥った方々に対し、社会復帰に向けた効果的な支援を講じていく活動は世代を超えて継続していく必要がある。若い世代の英知や自由な発想を結集して、画期的なアイデアが生み出されることを期待する。日本政府は薬物乱用防止の分野においても、国際社会と密接に連携していく。」

### 引原特命全権大使

「薬物乱用防止を含む世界の薬物問題に取り組むために、皆が市民社会やマルチステークホルダーに関与することが重要であり、このサイドイベントでの交流が、問題により効果的に取り組むために、多くのことを学べると信ずる。」

### UNODCワーカー事務局長

「UNODCは、若者による薬物乱用防止という私たちの共通の大義に対するDAPCの深い献身的な活動に感謝している。DAPCの寛大な貢献により、ここ10年だけでもDAPCの助成金は世界のあらゆる地域において、55の低・中所得国での139のプロジェクトを支援し、おおよそ166,000人が直接的に、間接的には400万人がその恩恵を受けた。DAPCの長年に渡る支援に感謝するとともにUNODCはDAPCとのパートナーシップをさらに何年も継続することを望んでいる。」



## プログラム2：ドキュメンタリー・クリップ



国連支援募金の30年を振り返り、公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターの成り立ちから、街頭での薬物乱用防止啓発活動・国連支援募金活動、日本から支援を受けた開発途上国の薬物乱用防止に立ち向かう姿などが含まれた動画。

## プログラム3：DAPC 藤野理事長より提言



### 藤野理事長

「国際社会は薬物乱用の予防が最も重要であるとし、予防に向けて条約の一部を改正した歴史的事実、さらに改正事項には予防に加え、不幸にして乱用に陥った者がいれば、早期発見から、社会復帰までの措置が一体であることを規定している。薬物はまさにポケットの中の大量破壊兵器となりうるから、それぞれの国が違った課題、問題があったとしても、なくなるのではない犯罪を防止するために努力を続けるのと同様に、薬物乱用防止の具体的な取り組みを継続しなければならない。」

## プログラム4：ユース・パネル

日本からの国連支援募金により、薬物乱用防止活動が行われている多くの国の中から4か国の団体、ラオスのフレンズ・インターナショナル、モンテネグロのCAZAS、ペルーのCEDRO、トルコのトルコ・グリーン・クレセント・ソサエティから、それぞれ代表の若者4名が活動報告を行う。



日本からは、県・ライオンズクラブ・大学の3者が連携し、大学生が小学生に対して薬物乱用防止教室の講師となって活動している状況について発表した。

広島修道大学2年松長明音さん、比治山大学3年西沖魁晟さん、明治大学4年横路萌さんがそれぞれ、「広島は、戦争中に原爆で破壊された都市であるが戦後、市民が力を合わせ廃墟から見事復興したこと、それは社会の再出発に向かい薬物依存から回復への道筋と似ていること、薬物乱用は決して個人の問題だけでなく社会全体の問題であること。」

「その広島では、地元の人々が、地元の学校に通い、地元の子供たちと薬物について話し合っていること。さらに大学生が薬物乱用防止の指導者として、年の近い子供たちに話をするすることで、子供たちが親近感を感じ、より深く興味を持って話を聞いてくれること。薬物に関する知識を持っていたことで、薬物乱用を回避できた体験談」等を発表し、

最後に3名で「未来に対して責任のある若者たちが、輝かしい未来を形成するために薬物乱用をなくすという共通の目標に向かって、共に手を取り合いながら歩むことが必要である」と呼びかけた。

## プログラム5：未来へ向けたメッセージ



### 国際麻薬統制委員会（INCB）パバディア委員長

「DAPCの薬物乱用予防支援活動30周年に改めて祝意を表すと共に、次世代に向けた薬物需要削減への支援をよろしく願いたい。条約は各国が薬物乱用防止、早期発見、治療、教育、アフターケア、更生、社会復帰のために特別な措置をとるよう求めている。薬物取締の国際間の協力体制としての地域会議は存在し、具体的な結果につながっているが、予防、治療などについては議論する場がない。今こそ、皆で話し合う国際的な場を設けるべきである。」



### 厚生労働省医薬・生活衛生局 監視指導・麻薬対策課 佐藤課長

「薬物乱用は極めて深刻な社会問題となっている。薬物に手を出させないことが極めて重要であり、皆の理解と協力が欠かせない。そのためには特に若者が薬物乱用の有害性を理解するための教育、支援活動が非常に効果的である。」

## 最後に

藤野理事長から、「このサイド・イベントを機に、私たちは、予防や早期発見、社会復帰に関する実践的で革新的なアイデアを議論するための非公式なフォーラムを設立し、互いに協力できるようにすることを提案したい。」との閉会の挨拶があり、当サイド・イベントは盛況のうちに終了した。

## ○岸田総理 表敬訪問(令和5年3月7日)



藤野理事長、日本ライオンズ 村木理事長及び国連支援募金30周年記念サイド・イベントで日本の薬物乱用防止活動の紹介とメッセージを呼びかける広島の大学生3名、彼らをサポートする広島フェニックスライオンズクラブのメンバーが岸田内閣総理大臣を表敬訪問し、総理から励ましのお言葉をいただきました。

## ○「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金の贈呈式(令和5年3月15日)



ウィーンのUNODC(国連薬物犯罪事務所)にて、藤野理事長とワーリー事務局長との間で約定書が取り交わされた後、募金の贈呈式が行われました。

本寄付金は開発途上国NGOを通じて、青少年の薬物乱用防止教育や指導者養成プロジェクト等に活用されます。これまでに7億3千5百万円、のべ649か国、780の薬物乱用防止プロジェクト実施のために役立てられています。

## ○調査・研究活動報告

### ■『大麻をはじめとする薬物の効果的な予防啓発活動の実施及び効果検証に向けた調査研究』令和5年度 第1回研究会議が開催されました。(令和5年8月7日)



本研究は、先行研究「若年者を対象としたより効果的な薬物乱用予防啓発活動の実施等に関する研究」の成果を踏まえ、新たに「大麻をはじめとする薬物の効果的な予防啓発活動の実施及び効果検証に向けた調査研究」として、当財団の鈴木勉理事が研究代表者となり令和7年度までの3年計画として実施する予定としています。

第1回研究会議は、研究代表者の鈴木勉理事及び財団藤野理事長の挨拶に続き、厚生労働省監視指導・麻薬対策課竹内補佐より初年度となる本研究事業について確認の後、各分担研究者から今年度を実施する研究計画のプレゼンテーションが行われ、最後に鈴木勉理事より研究班全体の方向性の確認が行われました。

今後は、各研究分担者が研究を進め、研究結果のプレゼンテーションを行う第2回研究会議を来年1月を目処に開催する予定としています。

## 新たな啓発資材のご案内



### ■薬物乱用防止レクチャーパネルセット(10枚組)

これまでの8枚組に「不正薬物の密輸入事例」2枚を加え、再登場!

薬物乱用防止教室で特に強調すべきポイントを1テーマごとにパネル化しました。リアルな写真やインパクトのあるビジュアルでイベント展示での理解促進にも効果的です。

- |                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| パネル①薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」     | パネル⑥「薬物依存形成プロセスⅠ」 |
| パネル②乱用される薬物「大麻」         | パネル⑦「薬物依存形成プロセスⅡ」 |
| パネル③乱用される薬物「覚醒剤/危険ドラッグ」 | パネル⑧「薬物犯罪の傾向」     |
| パネル④乱用される薬物「麻薬」         | パネル⑨「不正薬物の密輸入事例Ⅰ」 |
| パネル⑤「薬物乱による脳・身体への影響」    | パネル⑩「不正薬物の密輸入事例Ⅱ」 |



### ■啓発動画(DVD)No.56 Think about drugs!～私たちの選択～

高校生から大学生を想定対象にした啓発動画です。

薬物の問題に対してある程度の知識とその行為が悪いことだとの認識はある。それでもネット上に溢れる情報や、SNSで交わされる様々な書き込み、または身近な友人同士との会話などを通じて、興味を持ち始める年代です。まずは「事実を知ること」が大切であり、それが「自分自身の健康を守ること」、同時に「大切な友人を救うこと」にも繋がる。折しも学生スポーツ界に激震が走っているいまこそ気づいてもらうチャンスなのかもしれません。

本編15分 2023年8月制作

解説:松本 達朗 (公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター専務理事  
(元 厚生労働省関東信越厚生局麻薬取締部長)



### ■薬物標本【D】

新たな薬物標本がラインアップに加わります。

コンパクトでありながら内容は本格的、持ち運び用のケース付き、標本ケースは取り出せるようになっています。

覚醒剤・乾燥大麻・ヘロイン・コカインなど主な違法薬物の他、特に大麻については、部位としてのバツ、形状としてのジョイント、成分が濃縮化された形態のリキッドやワックスを加え、更に若い人たちへの乱用増加が懸念される合成麻薬MDMAとLSDも組み入れました。9月からご案内予定です!

各資材の詳細はホームページでご覧ください <https://dapc.or.jp/order/>

# ご寄付団体及び賛助会員

2023年2月10日から2023年8月4日までに、当センターにご寄付いただいた団体及びご入会いただいた賛助会員は次のとおりです。ご協力ありがとうございました。

## 【ご寄付団体・個人】

ツカモト ミチコ 様 神野 正啓 様 小林 きよみ 様  
 東京八王子陵東ライオンズクラブ 様 (一財)東京都警察懇話会 様  
 (一社)北海道医薬品配置協会 様 協和キリン株式会社 様  
 日本臓器製薬株式会社 様

## 【法人賛助会員】

株式会社豊島印刷 様 丸石製薬株式会社 様  
 UUUM 株式会社 様 株式会社エスエス製薬 様

## 【個人賛助会員】

竹井 早苗 様(新規)	山地 義夫 様(継続)	池田 冬美 様(継続)	神澤 正三 様(継続)
小池 和子 様(継続)	小山 功男 様(継続)	児玉 金之助様(継続)	根津 万寿夫様(継続)
原 恒道 様(継続)	星野 新一 様(継続)	村島 吉豊 様(継続)	古瀬 智之 様(継続)
稲荷 恭三 様(継続)	石井 征二 様(継続)	今井 啓祐 様(継続)	神垣 鎮 様(継続)
小清水 征次様(継続)	舘 親光 様(継続)	中嶋 敏次 様(継続)	永谷 健司 様(継続)
福田 将己 様(継続)	山本 章 様(継続)	石原 俊也 様(継続)	千葉 信雄 様(継続)
村松 滝夫 様(継続)	大澤 誠司 様(継続)	山本 稔 様(継続)	中村 楯夫 様(継続)
丸井 一弘 様(継続)	森 和弘 様(継続)	松石 高之 様(継続)	古木 光義 様(継続)
野々 晴久 様(継続)	永浜 静江 様(継続)	谷川 亘 様(継続)	和田 義広 様(継続)
服部 利明 様(継続)	鈴木 孝 様(継続)	矢口 博行 様(継続)	津村 信彦 様(継続)
寺田 義和 様(継続)	篠 順三 様(継続)	大屋 博 様(継続)	岡田 譲治 様(継続)
村田 昭夫 様(継続)	山田 順子 様(継続)	徳山 尚吾 様(継続)	鈴木 正二 様(継続)
齊藤 勲 様(継続)	仲 眞美子 様(継続)	村岸 治幸 様(継続)	佐藤 精一郎様(継続)
山田 松三郎様(継続)	渡貫 直正 様(継続)	荻野 真由美様(継続)	北川 けい子様(継続)
吉川 研司 様(継続)			



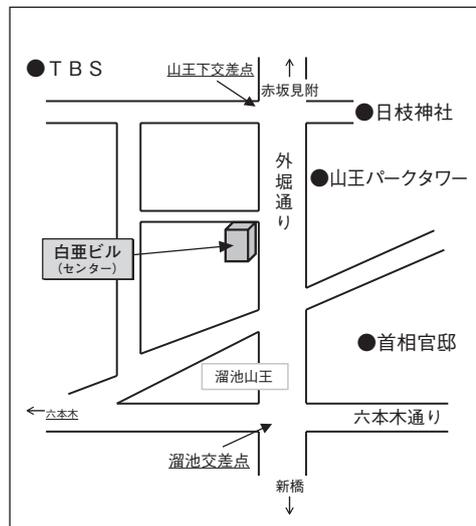
公益財団法人

麻薬・覚せい剤乱用防止センター

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-4-1 (白亜ビル9F)

TEL.03 (5544) 8436 ~ 7 FAX.03 (5544) 8473

ホームページアドレス <https://www.dapc.or.jp>



# 【賛助会員入会のご案内】

当財団の事業目的に賛同していただける方  
(企業・団体・個人等)の賛助会員を募集中

青少年への薬物乱用防止啓発活動、認定講師育成やボランティア支援、UNODCを通じた国際協力などの様々な活動は、皆さまからの継続的なご支援に支えられています。

賛助会員



寄付



お申込みはQRコードより  
○クレジットカード  
○オンライン受付  
がご利用いただけます

また寄付は  
○銀行振込  
○Amazon Payにも  
対応しています

## 介護付有料老人ホームと在宅福祉のご案内です。

八王子市暁町



●シルバービレッジ八王子

直下型地震にも対応  
安心の免震構造  
●シルバービレッジ日野東館



多摩モノレール  
甲州街道駅徒歩1分!!  
●シルバービレッジ日野



八王子市宮下町

●シルバービレッジ八王子西



八王子に隣接  
救急指定右田病院



日野・日野東館に隣接  
康明会  
ホームケアクリニック

在宅福祉部

- 居宅介護支援事業所  
シルバービレッジいちょうの里
- 訪問介護事業所  
シルバービレッジいちょうの社
- セカンドライフ応援倶楽部  
シルバービレッジいちょうの実



「ゆったりと安心の毎日」をお届けしています。

シルバービレッジ

パンフレットのご請求は

0120-19-0432

ホームページ シルバービレッジ 検索

株式会社シルバービレッジ 代表取締役会長 石井 征二(八王子陵東LC)

広報誌「NEWS LETTER」2023年第109号をご覧くださいありがとうございました。  
当財団では、薬物問題に取り組むすべての方々のお役にたてるよう、予防啓発のための各種教材のご提供や関連書籍の紹介、オリジナル企画や特殊、専門機関からのデータや統計資料、行政からのお知らせ、海外情報などを網羅し、整理・分類の上ご紹介などを行っております。  
また、薬物問題になかなか手が回らない開発途上国においても、私たちが支援をすることでその国の未来を担う子供たちを薬物乱用の危険から守り、薬物乱用を許さない安全で安心できる社会の実現を目指すことができます。このため、当財団では国連を通じた支援事業として、「国連支援募金」活動を行っております。皆さま方のご協力をお願いします。

#### 国連支援募金



オンラインの他にもゆうちょ銀行の「手数料免除口座」をご利用ください。



公益財団法人  
麻薬・覚せい剤乱用防止センター

<https://www.dapc.or.jp/>